

事業報告書

スポーツ庁委託事業
「スポーツキャリアサポート戦略」(平成30年度)における
「アスリートと企業等とのマッチング支援」

株式会社スポーツビズ

スポーツをチカラに。

SPORTS
BIZ SPORTS
MANAGEMENT
COMPANY

目次

はじめに	2
I アスリートキャリア意識に関するアンケート調査	3
1 アンケート調査における質問項目一覧	4
2 質問項目作成上の議論	6
3 引退移行期のアスリートにおける調査結果	7
4 調査結果のまとめ：引退移行期のアスリート	16
5 引退後のアスリートにおける調査結果	17
6 調査結果のまとめ：引退後のアスリート	29
7 アンケート調査全体としてのまとめ	30
II 研修・マッチング事業	31
1 マッチング	32
2 研修	36
3 ヒアリング（アスリート・企業）	39
III 事業実施に向けた仮説	40
1 結果のまとめと仮説	41
資料 webアンケート調査画面	42

はじめに

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催が日増しに近づくにつれ、社会におけるスポーツへの興味・関心はさらに高まりつつあると感じられる。同時に、オリンピック・パラリンピックにおいて主役となるアスリートたちもまた、大会に照準を合わせ日々想像を絶するトレーニングに打ち込んでいる。このようなアスリートにおける自らの限界に挑み続ける日々は、選手たちを人間としても大きく成長させているはずである。そのようなアスリートが獲得してきている人間としての能力（ライフスキル）は、競技スポーツの場に留まらず、あらゆる人間活動の場におけるパフォーマンスの発揮にもつながっていくはずである。社会における貴重な人材ともいえるアスリートたちが、競技を引退した後も引き続き社会の第一線で活躍し続けられるための支援（キャリアサポート）が、今まさに求められている。

本事業では、上記の支援を実現していくための1つの取り組みとして、引退移行期におけるアスリートの意識改革、およびセカンドキャリア支援をより充実させるためのロールモデルを創出する。そのために引退移行期のアスリートと新たな職域の企業等とのマッチング、ならびに引退移行期と引退後の（元）アスリートの就職状況などに関するアンケート調査をweb上にて実施する。そして、その調査結果から読み取ることができる現役～引退後のキャリア移行期の課題や障壁を明らかにする。

なお、本事業におけるアスリートとは、「大学卒業後もプロまたは実業団において競技を継続している人」と定義する。

■実施時期

事業開始から平成31年3月31日まで

■事業職員

アスリート・企業マッチング担当	2名
アスリート・企業ヒアリング担当	1名
アンケート担当	上記 3名
報告書作成・事業構築仮説案作成	上記 3名

I	アスリートキャリア意識に関するアンケート調査
---	------------------------

1. アンケート調査における質問項目一覧

対象1

引退移行期にあるアスリート

■ 調査項目

a) 基本属性

- ・ 年齢
- ・ 性別
- ・ 現在の専門競技
- ・ その競技での最高の競技成績
- ・ 現在の活動形態
- ・ アスリートとしての現在の目標

b) 引退後のキャリア形成を促す人間としての能力（ライフスキル）

- ・ 競技能力以外での強み
- ・ 困難の乗り越え方

c) 現役中に希望するキャリア形成サポート（国や民間から）

- ・ 希望するキャリア形成関連情報
- ・ 希望するキャリア形成支援

d) 引退後のキャリアと生活

- ・ 引退後のキャリアへの不安
- ・ 現在の職業観
- ・ 就職を希望する職業
- ・ 引退後のキャリアへの準備の有無
- ・ 民間企業によるキャリア形成支援希望の有無
- ・ 引退後の理想の年収
- ・ 引退後長年にわたるキャリアイメージの有無

■ 調査項目

a) 基本属性

- ・ 年齢
- ・ 性別
- ・ 現在時の専門競技
- ・ その競技での最高の競技成績
- ・ 現在のキャリアステータス
- ・ 引退後の経過年数

b) 引退後のキャリア形成を促す人間としての能力（ライフスキル）

- ・ 困難の乗り越え方
- ・ 職場適応時に役に立った競技能力以外での強み

c) 現役中に希望するキャリア形成サポート（国や民間から）

- ・ 希望するキャリア形成関連情報
- ・ 希望するキャリア形成支援

d) 引退後のキャリアと生活

- ・ 現在の職業観
- ・ 引退後のキャリアの推移
- ・ 引退後に就いた職業
- ・ その職業を選択した理由
- ・ 現役中における引退後のキャリアへの準備の有無
- ・ 引退後に向けて現役中に準備をしておくべきこと
- ・ 引退後の理想の年収
- ・ 現在の生活への満足度
- ・ 民間企業によるキャリア形成支援希望の有無
- ・ 引退後長期にわたるキャリアイメージの有無

2. 質問項目作成上の議論

1) 質問項目の全体的構成

引退移行期、引退後の両アスリートともに、全体的に共通の質問項目（以下、単に「項目」と表記）を設定し、環境や状況の変化による当人の意識や心境の変化をとらえることをねらいとした

2) 各項目への回答方法

webアンケート（Googleフォーム）上の項目設定の仕様にもとづき、全項目とも複数の選択肢の中から最も当てはまる選択肢1つを回答する形式とした。同時に「その他」の選択肢も全項目に設け、回答時における自由度の確保にも努めた。

3) アスリートが獲得してきている人間としての能力をとらえる

両アンケートともに、アスリートが長年の競技活動を通じて獲得してきていると考えられる人間としての能力（ライフスキル）を評価する項目を、関連する学術研究を参考に設定した。ここではアスリートが獲得しているライフスキルの一端を把握することを目的としている（**項目b**）。

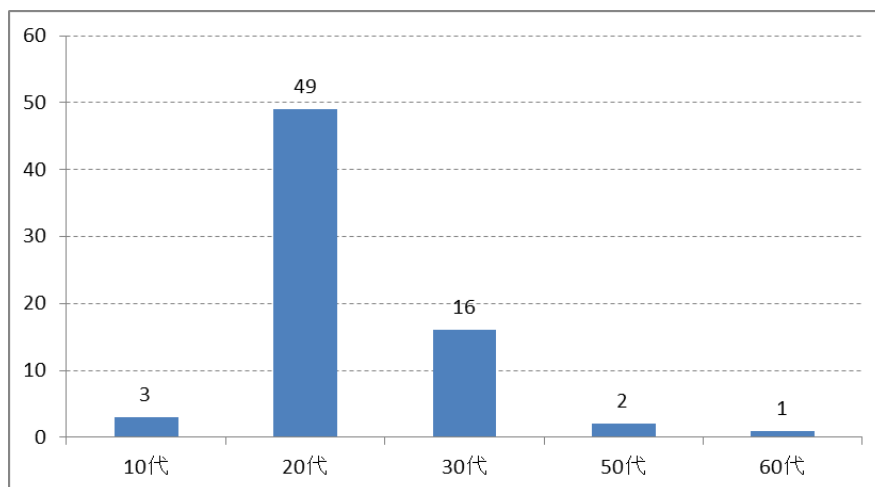
また、アスリートへのフィードバックとして、自らのライフスキルへの意識を高めてもらうとともに、それらを新たなキャリアの形成・発展につなげてもらうことをねらいとする。

4) より効果的なセカンドキャリア支援を実現していくために

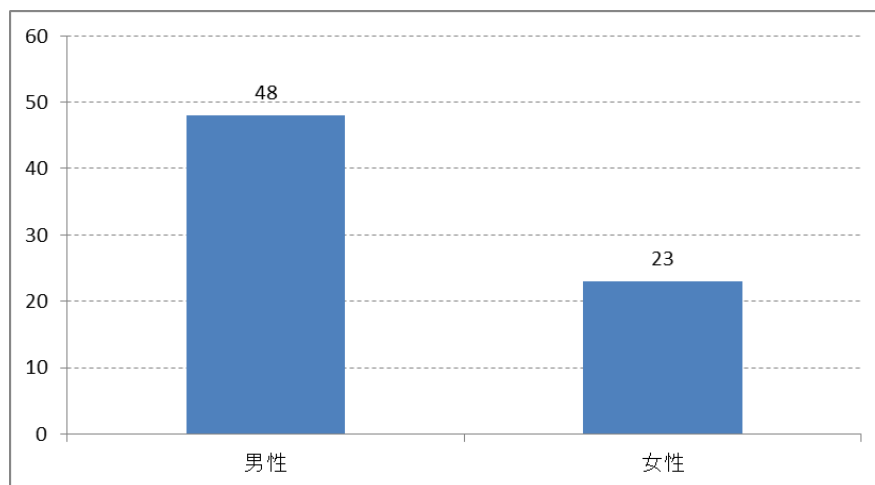
両アスリートが求めている支援の内容について回答を求めることで、より効果的なセカンドキャリア支援につなげていくことをねらいとしている（**項目c**）。また、アスリートの実態に即した支援のあり方についても検討するため、セカンドキャリアへ向けたアスリート自身の様子（不安や準備など）についても回答を求めている（**項目d**）。

3. 引退移行期のアスリートにおける調査結果

①回答者の年代



②男女別人数



③現在の専門競技

競技	人数
サッカー	23
バスケットボール	10
バレーボール	10
野球	5
レスリング	5
バドミントン	4
ラグビー	3
陸上	2
柔道	1
水泳	1
卓球	1
パラスポーツ(バスケットボール、テニス、マラソン)	6
計	71

④その競技での最高の競技成績

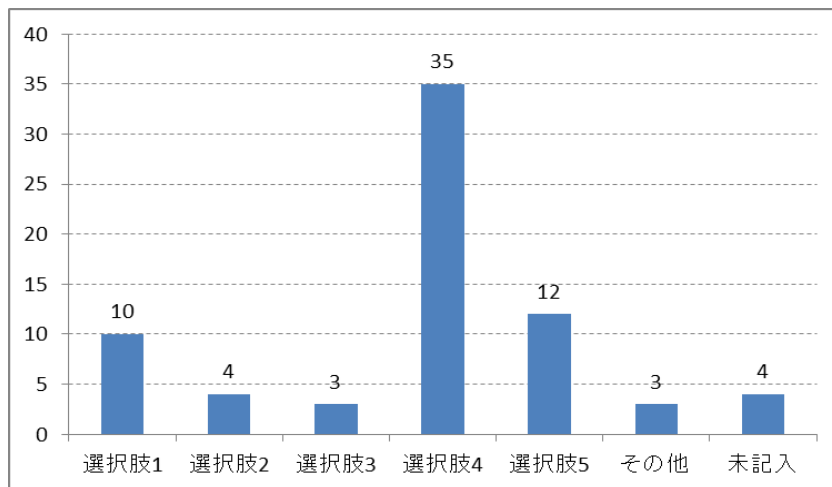
選択肢1：
国際大会優勝、五輪メダリスト

選択肢2：
国際大会4位以内～準優勝

選択肢3：
国際大会出場～16位以内

選択肢4：
国内大会5位以内～優勝

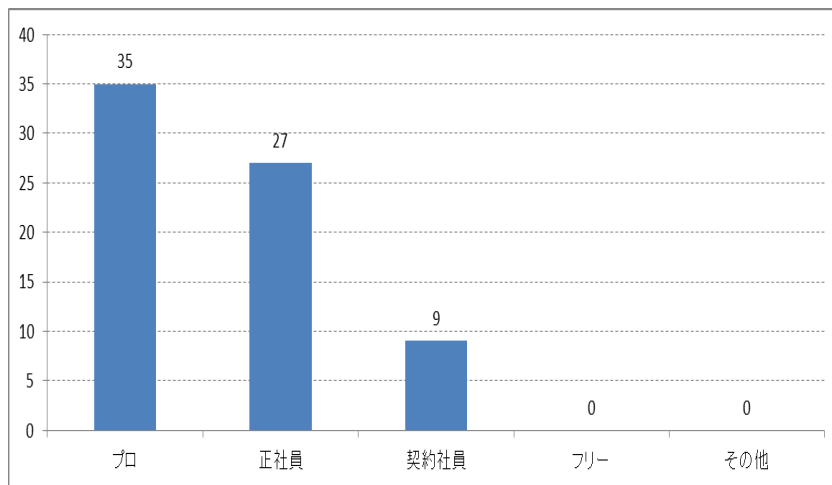
選択肢5：
国内トップレベル



その他：

- ・四国アイランドリーグ総合優勝（×2）
- ・四国アイランドリーグ首位打者、ベストナイン

⑤現在の活動形態



⑥アスリートとしての現在の目標

選択肢1：
五輪出場、五輪メダル獲得

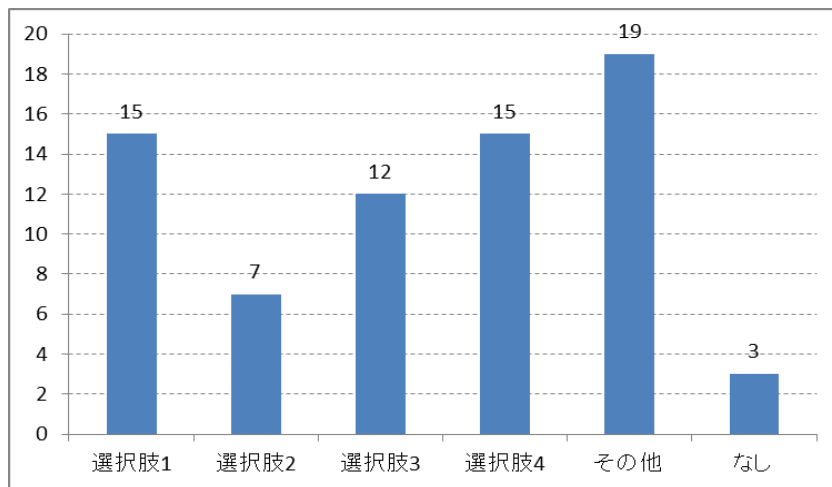
選択肢2：
海外でプレー、国際大会出場

選択肢3：
国内大会優勝

選択肢4：
国内トップレベル入り

その他：

- ・長く現役生活を送ること
 - ・リーグ戦で活躍する
 - ・リーグ戦でチームに貢献する
 - ・全試合に出場する
 - ・強化指定に入る
- など



⑦競技を通じて獲得してきた、競技能力以外でのあなたの強み

選択肢1：
目標を設定し努力を継続できる

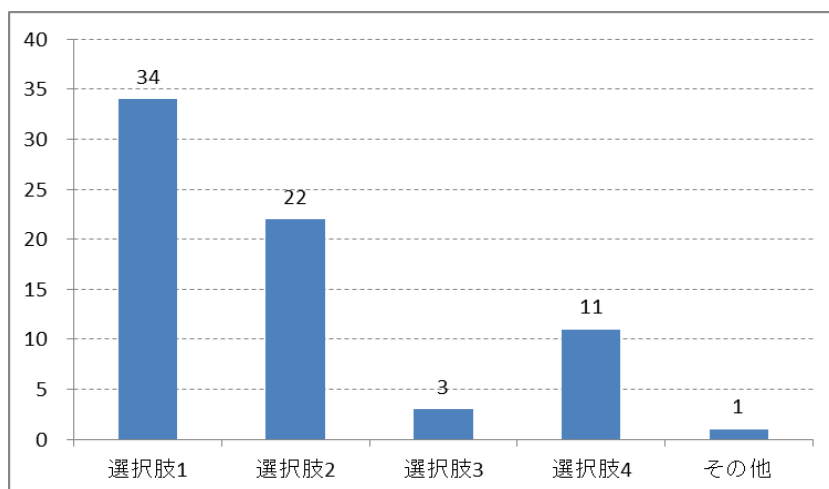
選択肢2：
苦しい場面でも
ポジティブ思考で踏ん張れる

選択肢3：
PDCAサイクルの実践

選択肢4：
周囲と協調できる

その他：

- ・楽しく競技を行うこと



⑧ケガや成績不振、スランプ等の競技上の困難をこれまでどのように乗り越えてきたか

選択肢1：

いまできることを考え
それに専念する

選択肢2：

周囲に助言やアドバイスを
積極的に求める

選択肢3：

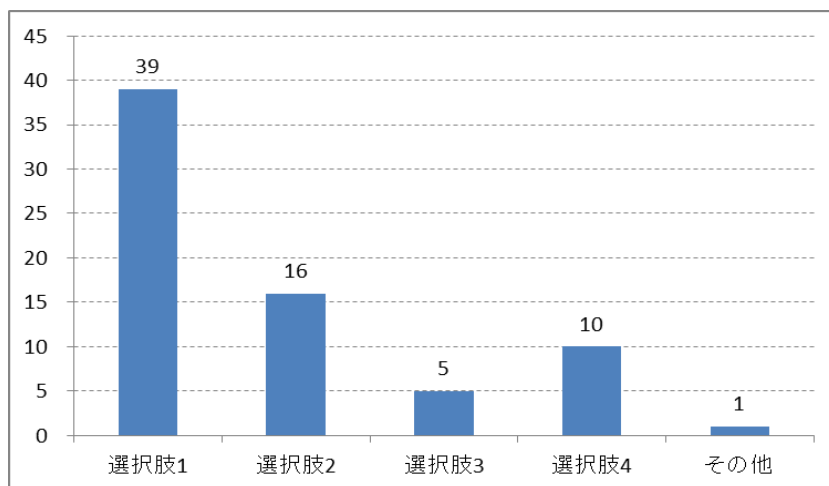
情報を収集し
状況の打開策を見出していく

選択肢4：

ネガティブな状況を
ポジティブにとらえる

その他：

・特になし



⑨引退後のキャリアに対して抱いている不安

選択肢1：

日々の仕事にやりがいを持
つことができるか

選択肢2：

日々の業務を
こなしていくことができるか

選択肢3：

職場の人間関係に対応していけるか

選択肢4：

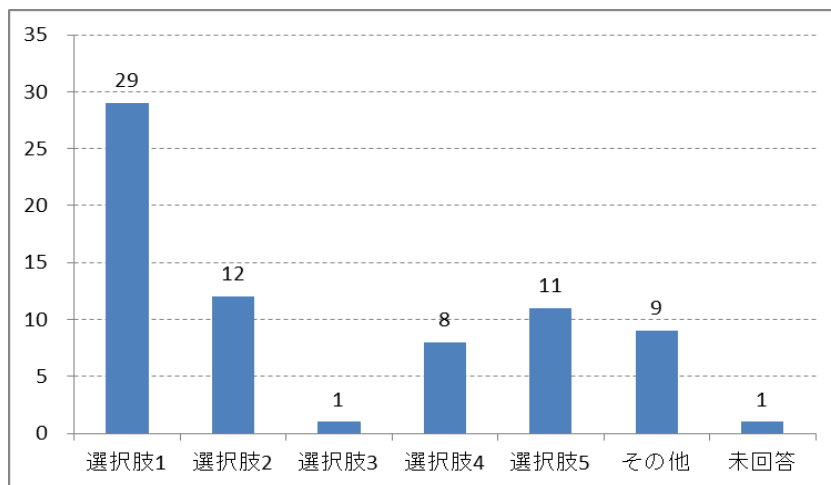
アスリートとしての
経験や実績は評価されるのか

選択肢5：

仕事が見つかるのか

その他：

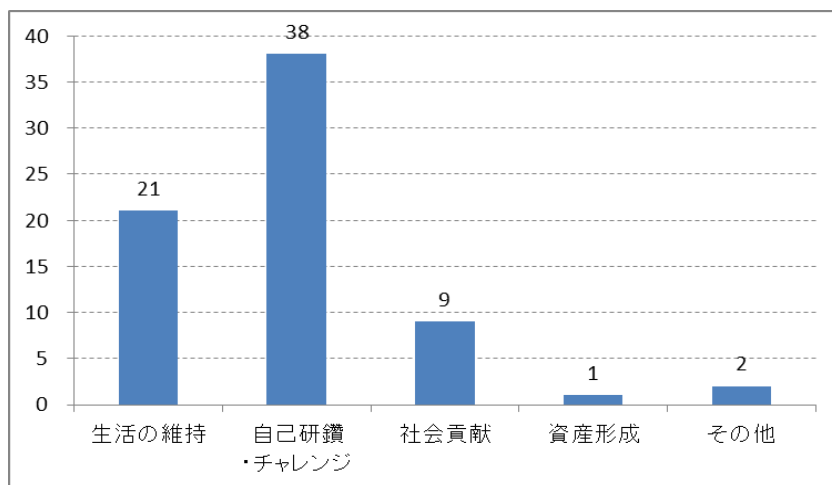
- ・特になし（×6）
- ・50代で転職できるのか
- ・引退後の格闘家としてのキャリアに関する不安
- ・バスケットボール業界の仕事がしっかりと発展していくかどうか



⑩現在の職業観

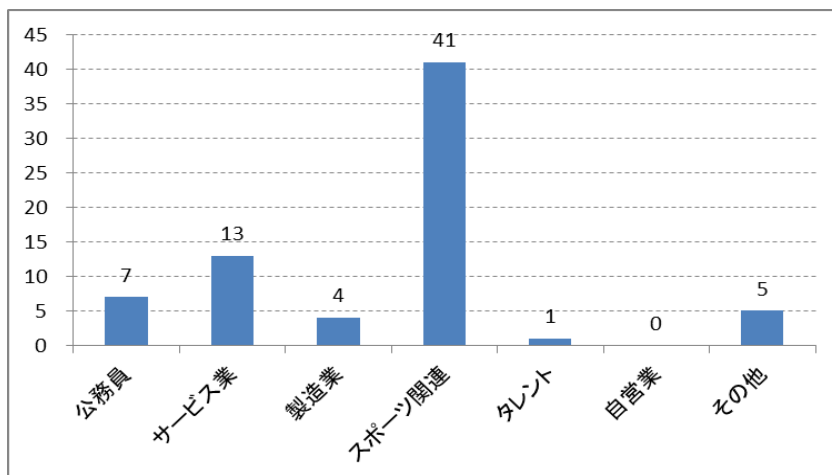
その他：

- ・格闘家へのステップ
- ・職業観という感覚がない



⑪どのような職業に就きたいか

※企業等に勤めている方は
現在の職業を回答



その他：

- ・わからない (×3)
- ・会社員
- ・専門職や製造業で起業したい

⑫現役中に欲しいと感じる引退後のキャリア形成（就職）関連情報（国や民間から）

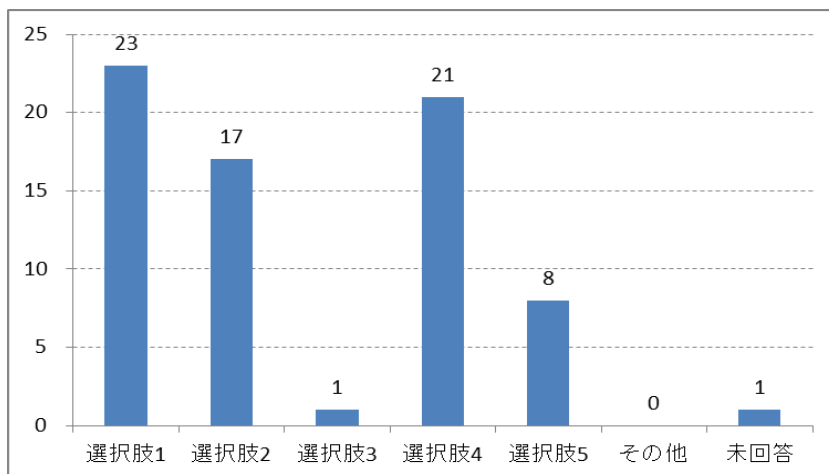
選択肢1：
競技引退から
就職獲得までのモデルケース

選択肢2：
就職先の傾向

選択肢3：
早期離職の割合と
その考えられる原因

選択肢4：
企業側がアスリートに
期待する・求める能力

選択肢5：
就職支援サイト・団体の一覧

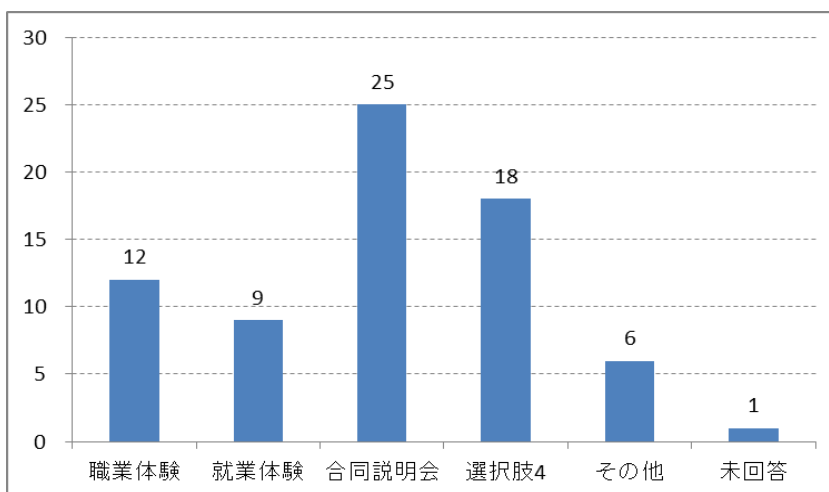


⑬現役中に欲しいと感じる引退後のキャリア形成に向けた支援（国や民間から）

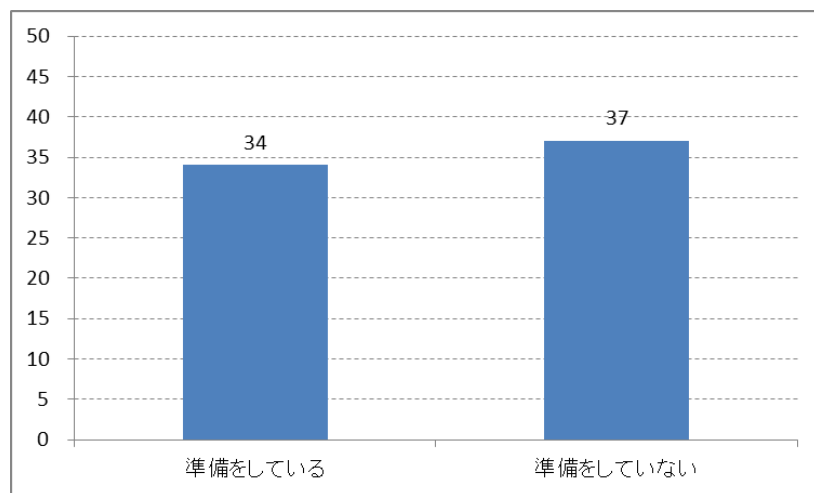
選択肢4：
ビジネスマナー・
一般常識の講習会

その他：

- ・ 特になし
- ・ 資格取得
- ・ 引退時期のアドバイス
- ・ 自分の実現したいことをアピールできる場の確保
- ・ いろいろな教育（リーダー教育、ファシリテーター教育など）
- ・ 自己分析の手助け（引退後本当に何がしたいのか等を掘り下げる）



⑭引退後の準備をしているか（A）or していないか（B）



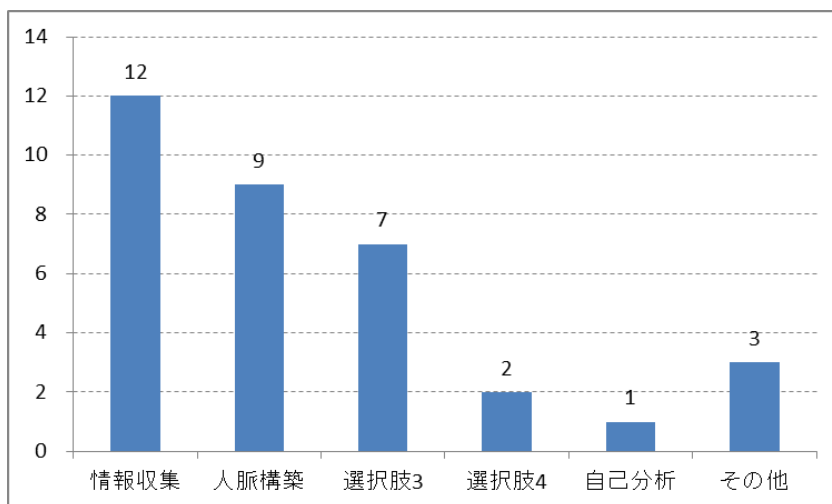
A回答者：最も力を入れて準備をしていることは

選択肢3：
資格取得のための学習

選択肢4：
ビジネスマナーや
一般常識習得のための学習

その他：

- ・ 英語
- ・ 会社設立
- ・ 自分自身の技術向上

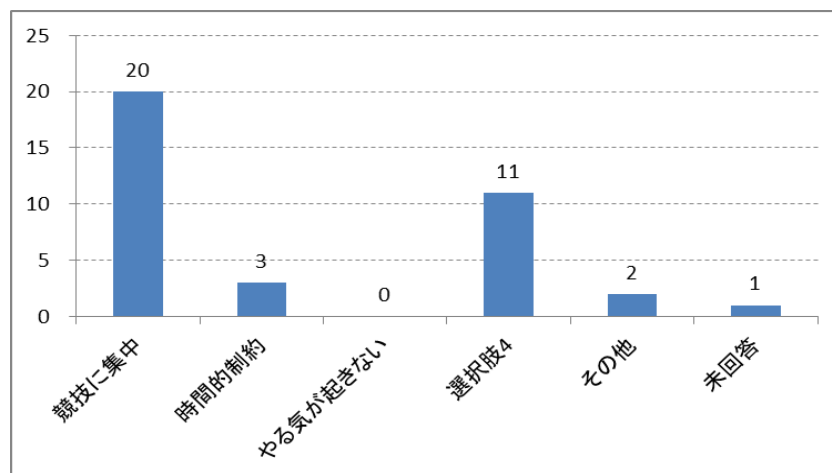


B回答者：準備をしていない一番の理由は

選択肢4：
何をすべきかわからない

その他：

- ・ やりたいことが
はっきり決まらない
- ・ 引退後、年齢的に
再就職できると思えない



⑮引退後にキャリア形成／キャリアアップに向けた支援を民間企業より受けたいと思うか

選択肢1：

とても受けたいと思う

選択肢2：

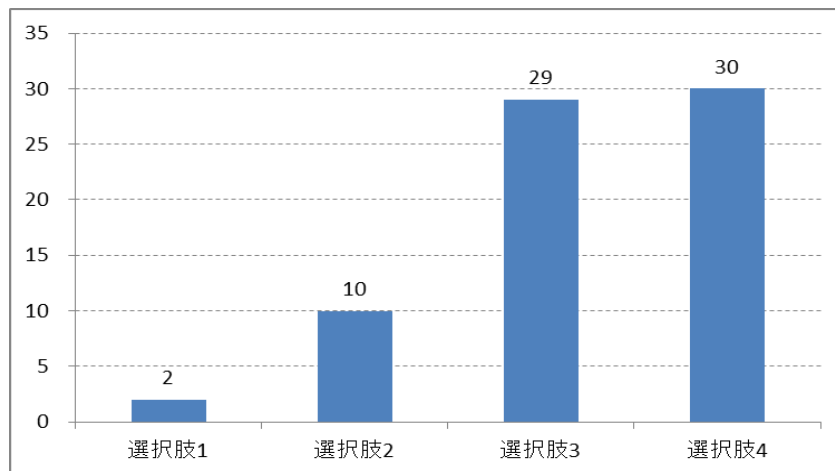
わりと受けたいと思う

選択肢3：

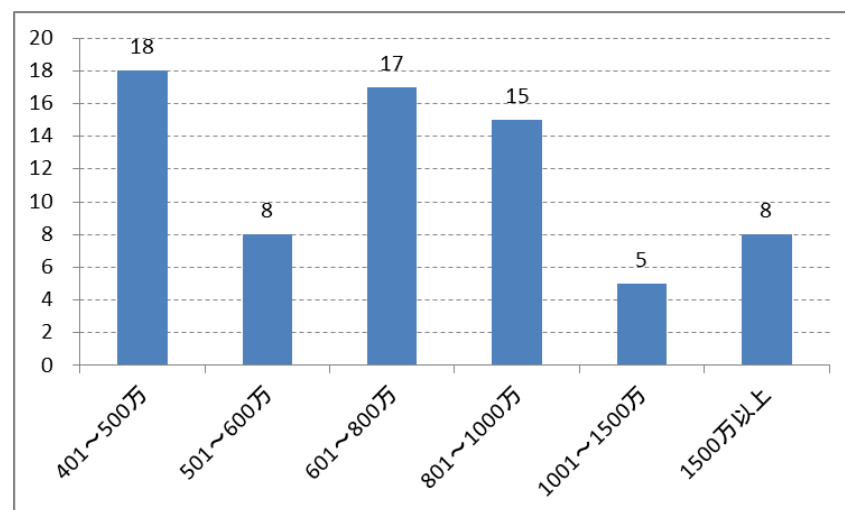
あまり受けたいと思わない

選択肢4：

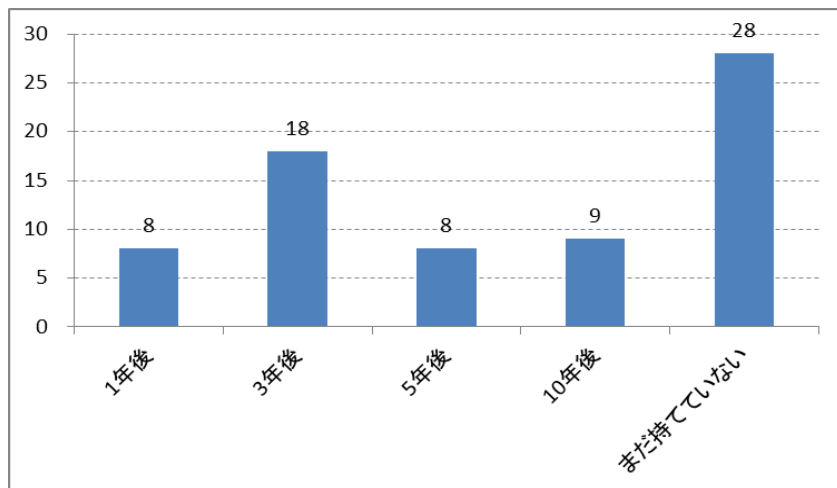
ぜんぜん受けたいと思わない



⑯引退後の理想の年収



⑰引退後何年先までのキャリアイメージを明確に持っているか



未だ明確に持てていない主な理由（任意回答）：

- ・自分が何をしているか今は想像ができない
- ・次、何に向かって頑張ればいいのかわからない
- ・まだやりたい事がはっきり決まらないのでわからない
- ・やりたいことが見つからない
- ・まだ競技を続けるイメージしかない
- ・これをやりたいと思うことが決まっていない
- ・指導者をやろうとしているが明確な目標を今の時点で持てていない
- ・遠征で職場で仕事をする時間が少なく、仕事について学ぶ時間が少ないから など

4. 調査結果のまとめ：引退移行期のアスリート

1) 競技を通じて獲得してきている人間的な能力

人間的な能力（ライフスキル）については、「目標を設定し努力を継続できる」との回答が最多となった（**p8**）。定期的に行われる競技大会に向けた目標設定の繰り返しが、目標を設定する能力（目標設定スキル）の獲得につながっていると考えられた。特に、短期的な目標の設定は直近で取り組むべきことを明確にすることにつながる。実際、そのような短期目標の設定は、「いまできることを考えそれに専念する」という行動として、競技上の困難（ケガや成績不振、スランプ等）を乗り越える方法として多くのアスリートが実践していることが示された（**p9**）。これらの結果は、後述の引退後のアスリートにおいても同様であった（**p18、23**）。

2) アスリートが求める、引退後のキャリア形成関連情報

比較的多く求められた情報は「競技引退から就職獲得までのモデルケース」、「企業側がアスリートに期待する・求める能力」、「就職先の傾向」であった（**p11**）。本事業で創出を目指すロールモデルは、モデルケースの1つとして、多くのアスリートが求める有益な情報になると考えられる。

3) 引退後のキャリアに向けたアスリートの実態

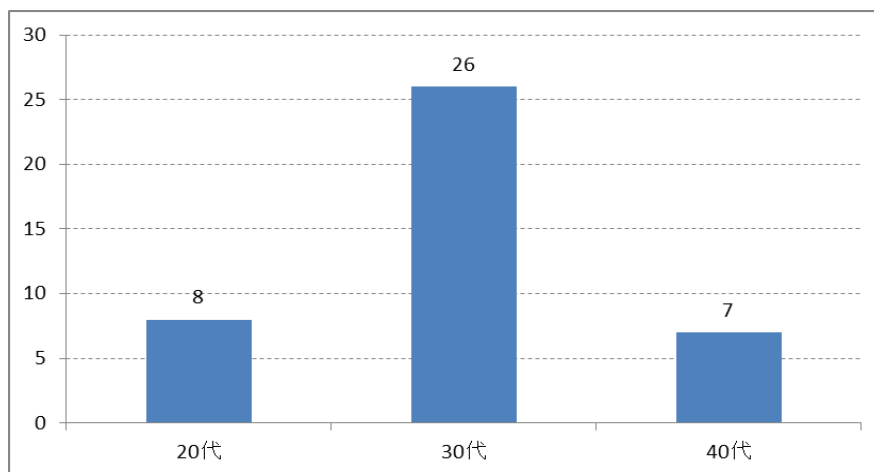
引退後に向けた準備の有無については明確に回答が分かれた（**p12**）。準備をしているアスリートにおいて、最も多く行われているのは「情報収集」であった。限られた時間の中で、スマホやPC等により手軽に実施できるというのが「情報収集」の利点であると考えられる。上記2点の傾向は、後述の引退後のアスリートにおいても同様であった（**p21**）。

4) 民間企業によるキャリア形成に向けた支援への意識

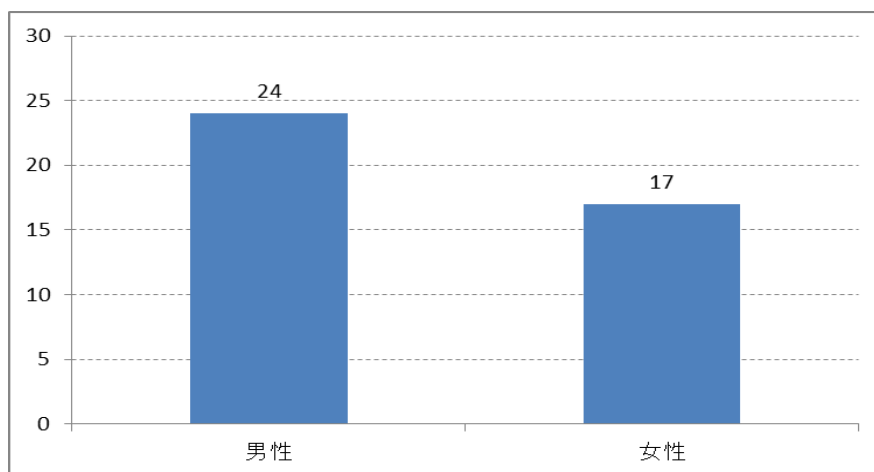
「とても受けたいと思う」または「わりと受けたいと思う」という肯定的回答は全体の半数以下（12名／約17%）であった（**p13**）。また、このような肯定的回答は、引退後のキャリアに向けて何らかの準備をしていないグループ（37名）においてはわずか1名であった。

5. 引退後のアスリートにおける調査結果

①回答者の年代



②男女別人数



③現役時の専門競技

競技	人数
テニス	8
野球	8
スキー	7
レスリング	5
ラグビー	4
サッカー	1
自転車	1
ソフトボール	1
テコンドー	1
バドミントン	1
バレーボール	1
ハンドボール	1
フットサル	1
陸上	1
計	41

④その競技での最高の競技成績

選択肢1：
国際大会優勝、五輪メダリスト

選択肢2：
国際大会4位以内～準優勝

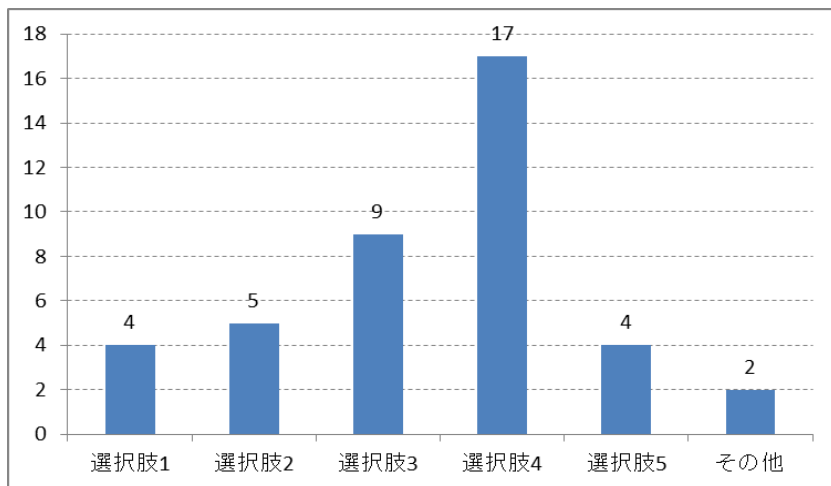
選択肢3：
国際大会出場～16位以内

選択肢4：
国内大会5位以内～優勝

選択肢5：
国内トップレベル

その他：

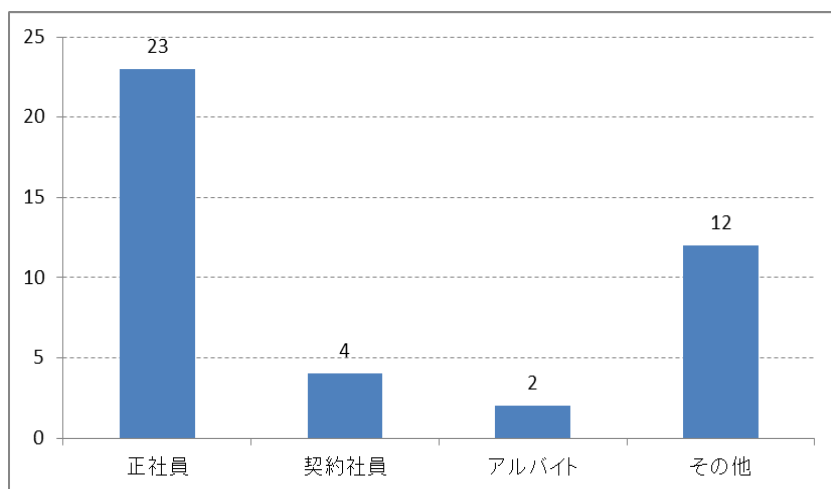
- ・宮城県優秀選手
- ・四国アイランドリーグ年間総合優勝



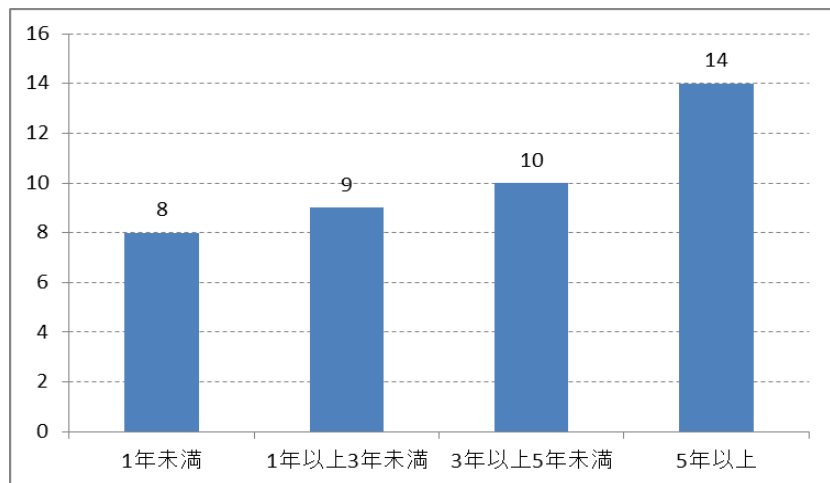
⑤現在のキャリアステータス

その他：

- ・無職
- ・起業（×2）
- ・自営業
- ・公認会計士
- ・個人事業主（×3）
- ・フリーランス
- ・IT会社CEO
- ・JOC海外指導者研修制度にて研修中
- ・プロスキーヤー



⑥引退して何年が経過したか



⑦ケガや成績不振、スランプ等の競技上の困難を現役時どのように乗り越えてきたか

選択肢1：

いまできることを考え
それに専念する

選択肢2：

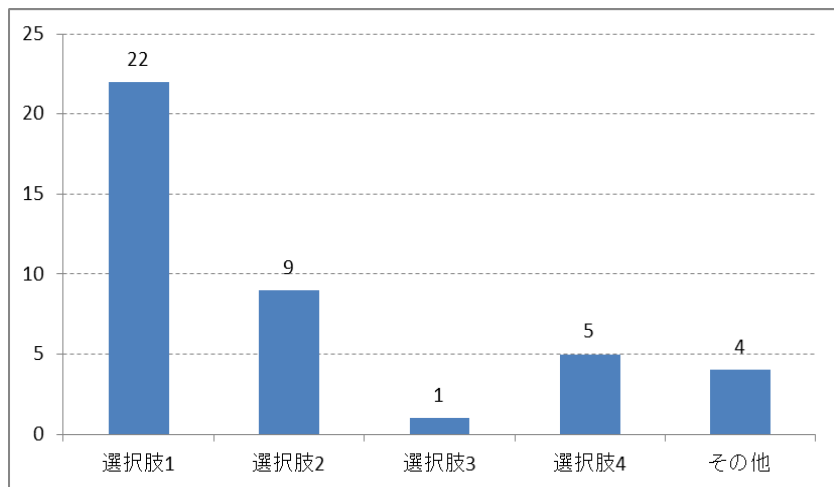
周囲に助言やアドバイスを
積極的に求める

選択肢3：

情報を収集し
状況の打開策を見出していく

選択肢4：

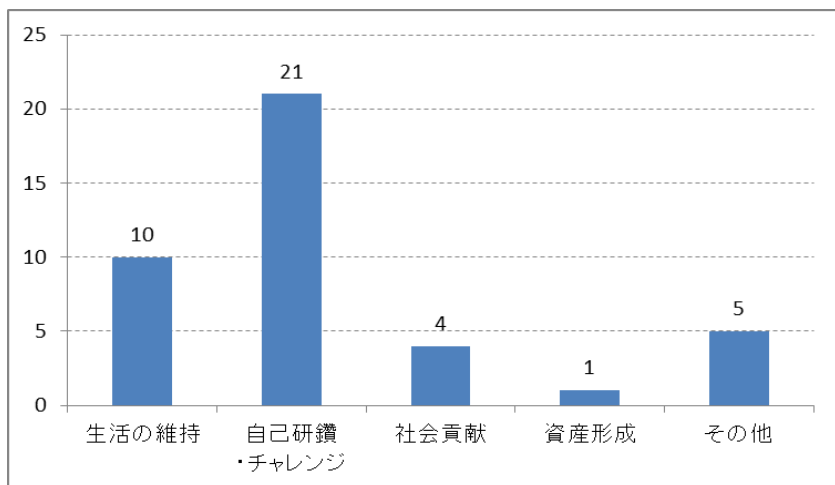
ネガティブな状況を
ポジティブにとらえる



その他：

- ・ 上記の項目のいずれか又は複数を状況に応じて活用する
- ・ いままでの練習内容を信じコツコツと積み重ねる
- ・ ベストなことのみをイメージする
- ・ 当時は無意識だったが、自分と組織を客観視した時に、
自分がどの領域で、何を武器として闘うかを整理していた

⑧現在の職業観



その他：

- ・チャレンジと社会貢献（×2）
- ・コミュニケーション
- ・ワクワクする感覚

・自分自身が社会に対して感じている違和感や、もっとこうだったらいいのに、っていう事を解決するための仕事でもあるし、それが自分のできることでも、やりたいことでもあって、仕事の中に好奇心を掻き立てられる瞬間もあり、自分のためでもあるし、それが関わる人達のためにもなっていると感じている。自利利他な感じで絞れません。ものすごくチャレンジングでもあって、自分が変化したぶん提供できる価値も大きくなるという意味では、そこにモチベーションもあります。

⑨引退後のキャリアの推移

選択肢1：

アルバイト、契約社員、正社員のいずれかを維持

選択肢2：

アルバイトから契約社員または正社員へ

選択肢3：

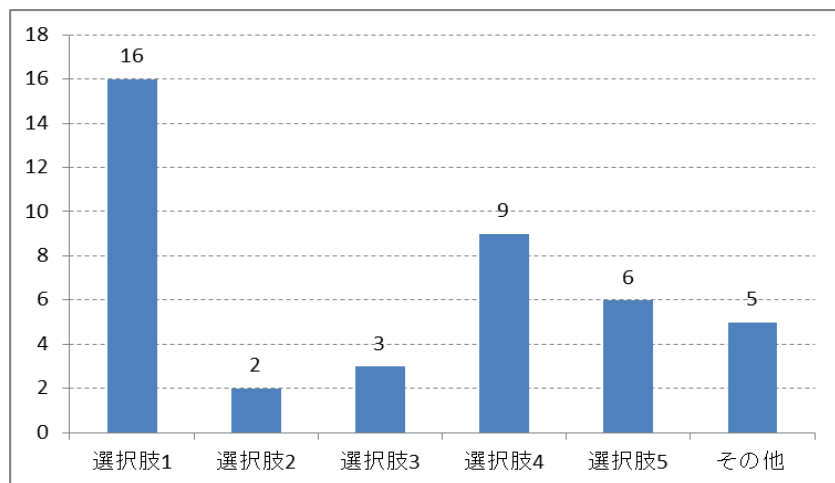
契約社員から正社員へ

選択肢4：

転職を経験

選択肢5：

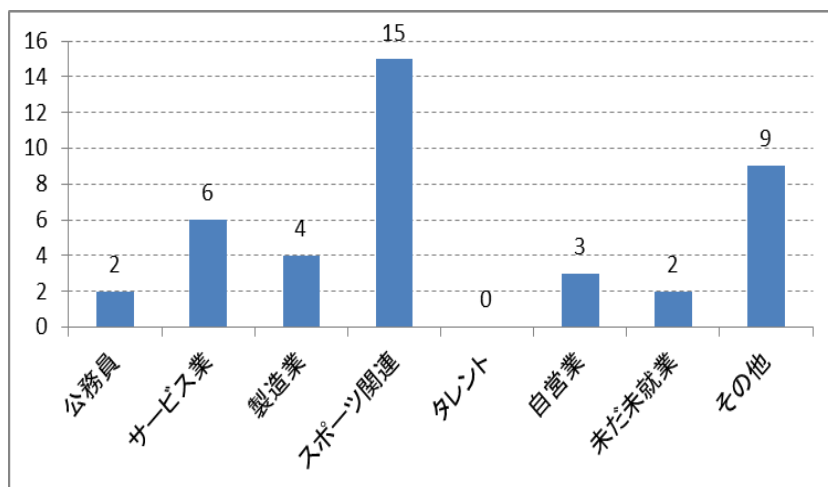
起業を経験



その他：

- ・研修中
- ・就職活動中
- ・正社員の他、事業も展開
- ・アルバイト、正社員、転職、起業
- ・引退後に修士の学位を取得した後、博士課程に在籍しながら契約社員として勤務

⑩引退後どのような職についたのか



その他：

- ・金融業（×2）
- ・大学教員
- ・IT企業
- ・ベンチャー企業
- ・医療機器販売
- ・製造業と個人事業
- ・実業団時代の企業
- ・飲食業にてアルバイトを経験した後、サービス業にて正社員、現在、公認会計士として会計・税務分野およびキャリア形成支援分野のサービス業に従事

⑪なぜその職を選択したのか

※企業等に勤めている方のみ回答

選択肢1：

コーチや知人からの紹介

選択肢2：

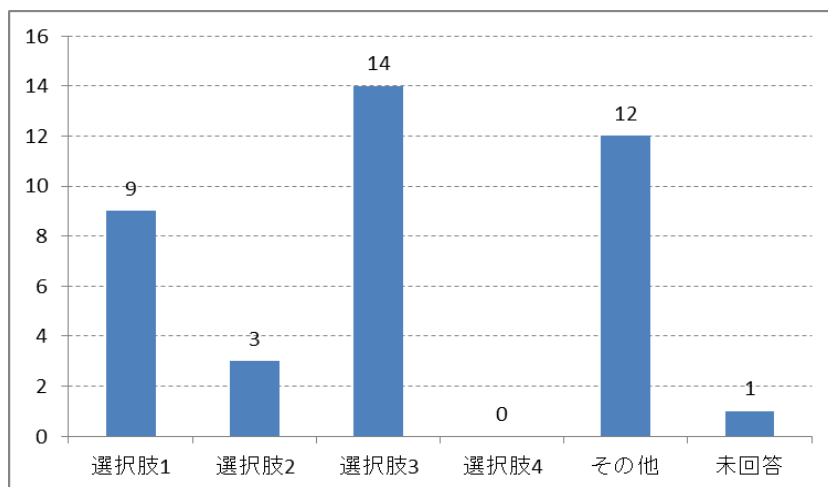
アスリートとしての経験や実績を評価してくれる

選択肢3：

自らの強みを活かせる

選択肢4：

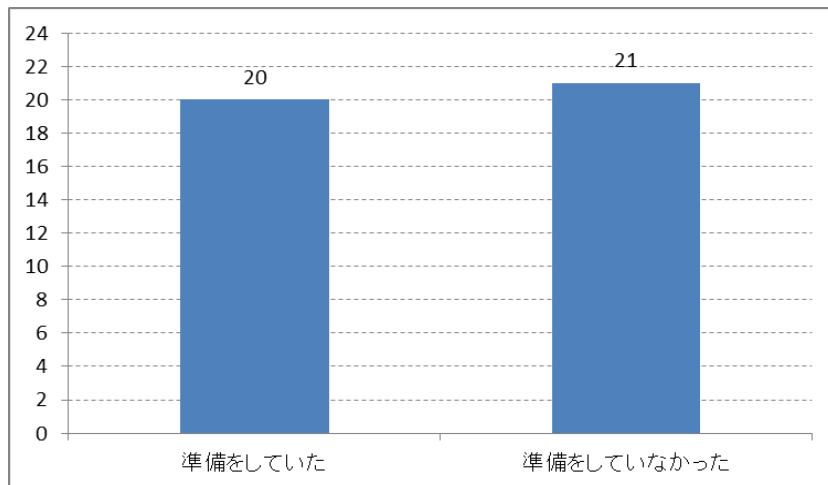
とにかく職を得るため



その他：

- ・所属先にそのまま就職（×4）
- ・会社に興味があったから
- ・中学時代からの夢であったから
- ・自らの人生におけるミッションが明確になったから
- ・競技を通して経験したことを広く伝えたかったため
- ・自分の価値観と重なったこと 自らの強みと特性がマッチしていると感じたこと
- ・アスリートの目線を変えたり、搾取のない社会を実現する 日本に新しい産業を作る
- ・競技しか知らないキャリアだったので、一般的な社会人、組織人を学びたいと考えたため
- ・商業高校での学びの経験、スポーツ選手のキャリアの選択肢に新たな事例を作るという想い

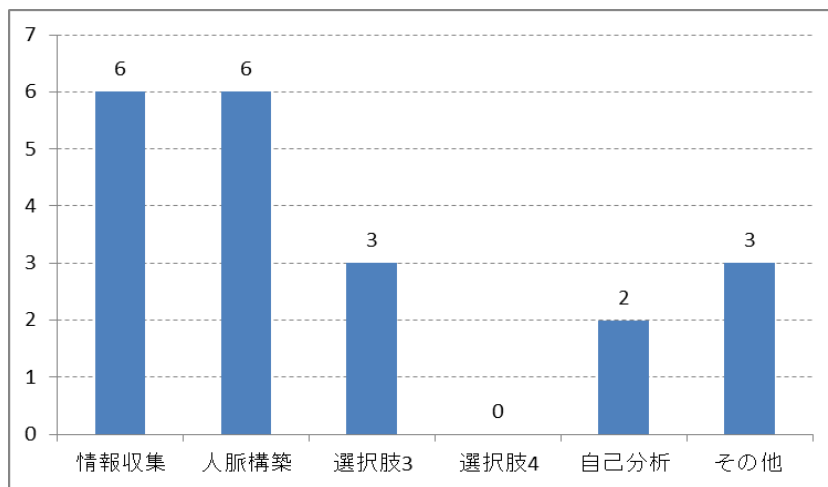
⑫現役中に引退後の準備をしていたか（A）or していなかったか（B）



A回答者：最も力を入れて準備をしていたことは

選択肢3：
資格取得のための学習

選択肢4：
ビジネスマナーや
一般常識習得のための学習

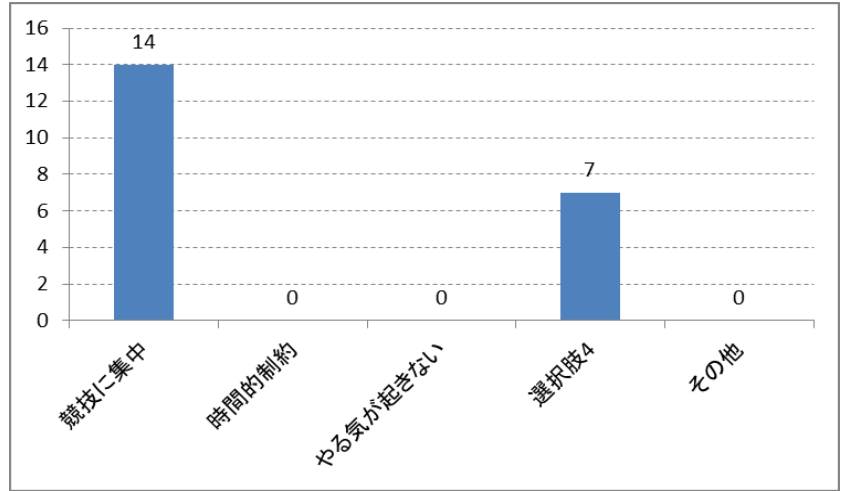


その他：

- ・ 研究活動
- ・ 情報収集と人脈構築
- ・ 所属先で働きながら現役をしていたのでそのままの流れで

B 回答者：準備ができなかった一番の理由は

選択肢4：
何をすべきかわからない



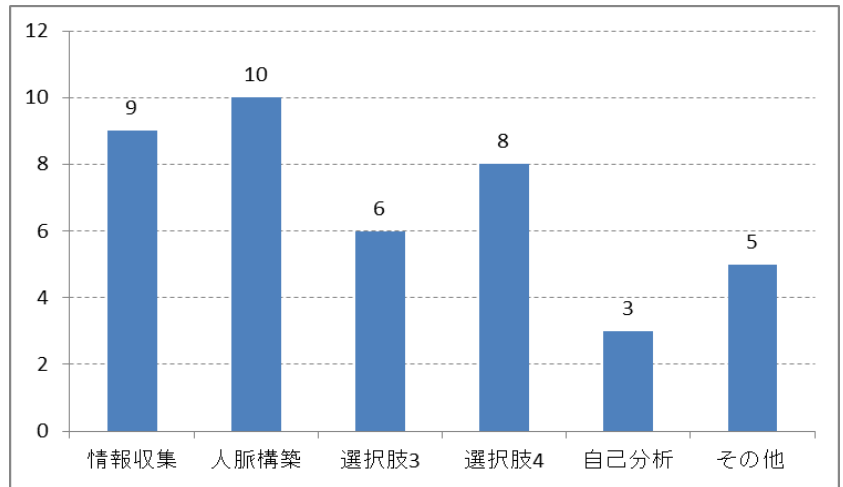
⑬ 現役中に最も準備しておくべきだったこと

選択肢3：
資格取得のための学習

選択肢4：
ビジネスマナーや
一般常識習得のための学習

その他：

- ・ 語学
- ・ お金と経済の知識
- ・ 製品知識や物、事の流れ
- ・ いろんなものに興味を持って、いろんな情報に触れること 情報の幅と深み
- ・ わからない



⑭職場に適応する際に役に立ったと感じる、競技能力以外でのあなたの強み

※まだ企業等に勤めていない方は、「役に立ちそうだと感じる強み」で回答

選択肢1：

目標を設定し努力を継続できる

選択肢2：

苦しい場面でも
ポジティブ思考で踏ん張れる

選択肢3：

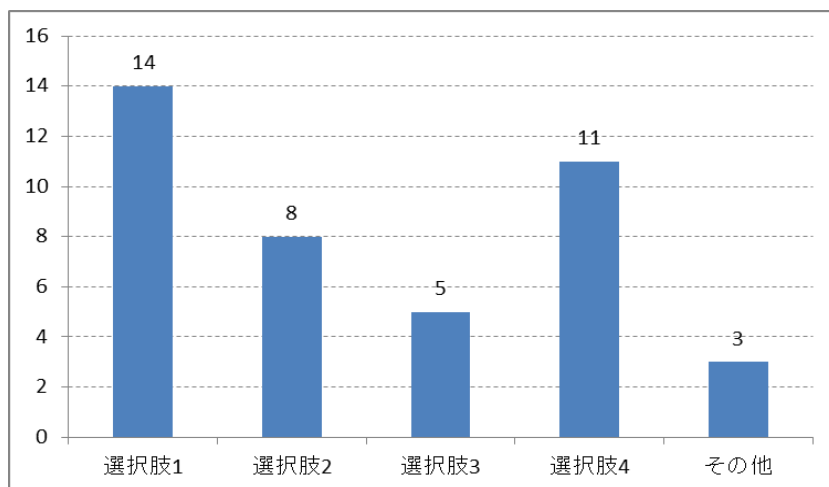
PDCAサイクルの実践

選択肢4：

周囲と協調できる

その他：

- ・上記選択肢のすべて
- ・コミュニケーション能力
- ・やればできると自分自身を信じれること



⑮現役中にあればよかったと感じる引退後のキャリア形成（就職）関連情報（国や民間から）

選択肢1：

競技引退から
就職獲得までのモデルケース

選択肢2：

就職先の傾向

選択肢3：

早期離職の割合と
その考えられる原因

選択肢4：

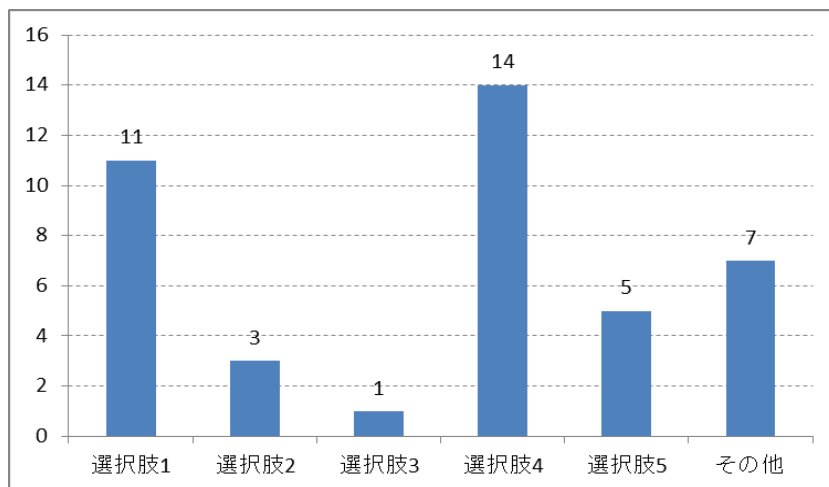
企業側がアスリートに
期待する・求める能力

選択肢5：

就職支援サイト・団体の一覧

その他：

- ・インターン
- ・アスリートを欲しいと言って頂ける企業へのインターン
- ・所属職場における研修
- ・企業スキルを学べる
- ・社会がアスリートに期待する・求める能力
- ・自分の仕事に誇りを持って、仕事への想いを持って語れる人との出会い
- ・ジュニア期からデュアルキャリアについて知ること、そして
文武両道がスポーツにとって当然との考えを指導者が持つこと

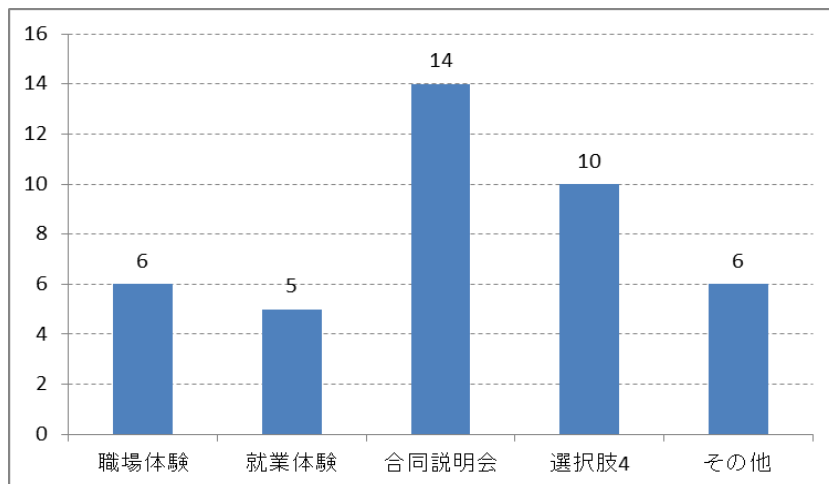


⑩現役中にあればよかったと感じる引退後のキャリア形成に向けた支援

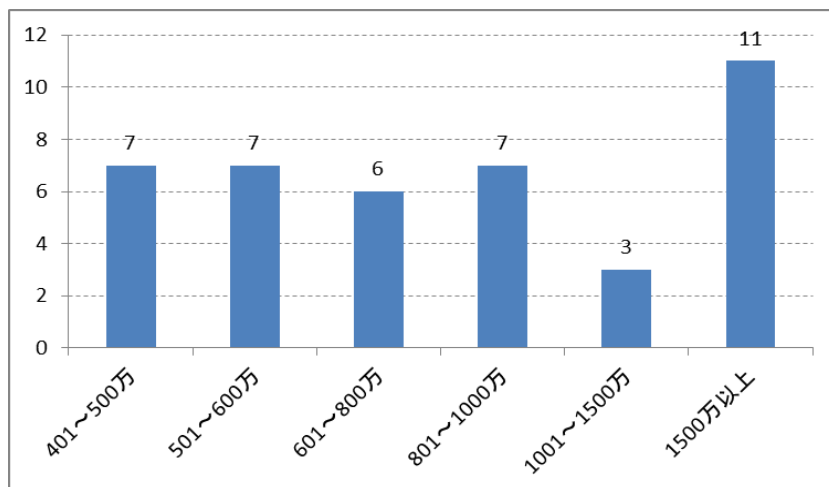
選択肢4：
ビジネスマナー・
一般常識の講習会

その他：

- ・ 起業
- ・ 起業希望者に対する支援（勉強会・交流会等）
- ・ 一般社会とスポーツ界の相対化
- ・ 経営者との交流会、メンターの紹介
- ・ 競技と勉学の両立が可能な支援体制（引退後のプランを持ち、選択肢の提案、必要な勉強をサポートする）
- ・ 「ビジネスマンとして働く」ということが
楽しいと感じさせてくれる、仕事の本質をわかりやすく教えてくれる人との出会い



⑪引退後の理想の年収



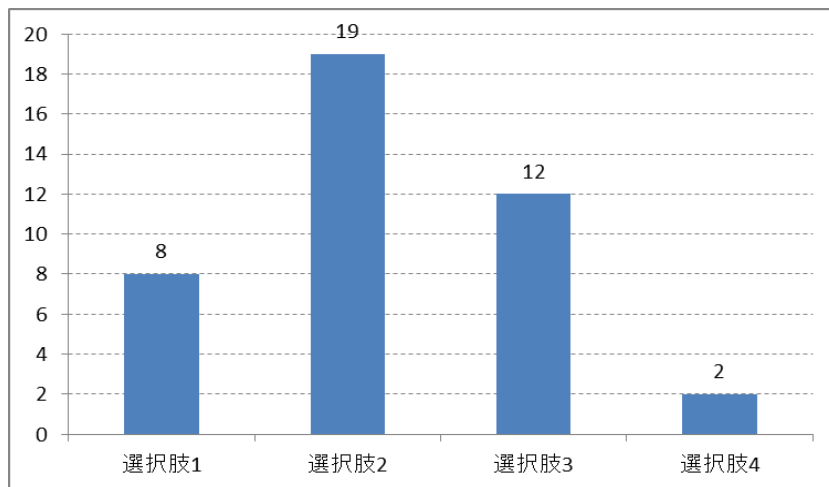
⑮ 今の生活に満足しているか

選択肢1：
とても満足している

選択肢2：
わりと満足している

選択肢3：
あまり満足していない

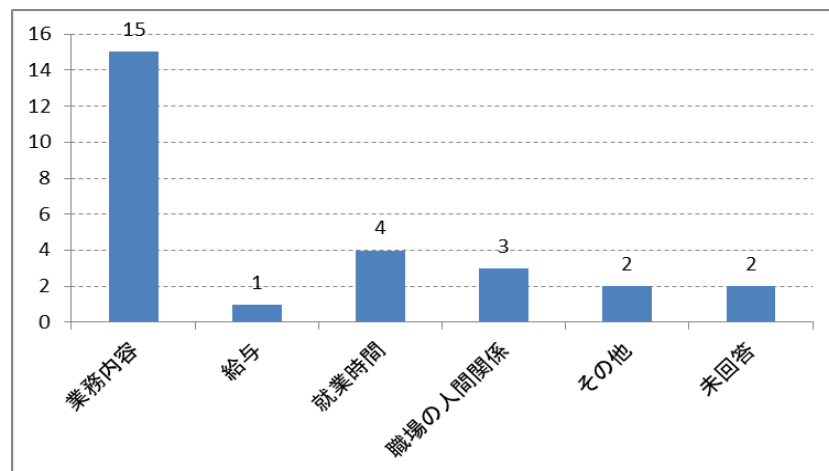
選択肢4：
ぜんぜん満足していない



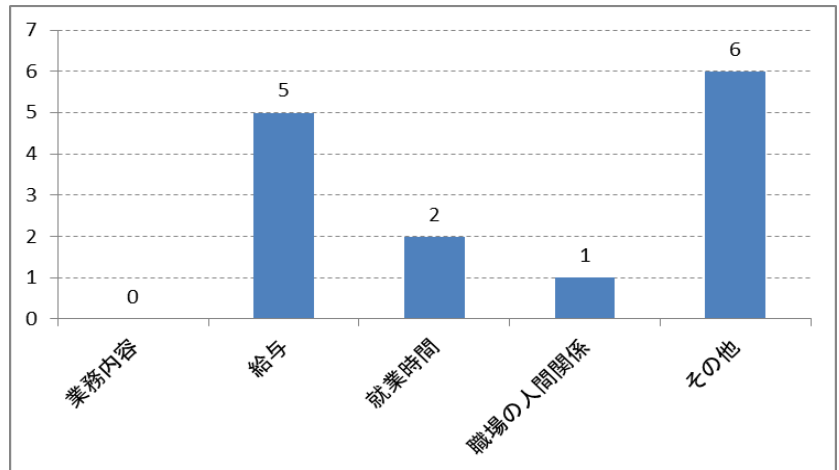
「とても満足している」または「わりと満足している」での回答者：満足している点は？

その他：

- ・ 選択肢のすべて
- ・ 自己成長と人脈構築



「あまり満足していない」または「ぜんぜん満足していない」での回答者：満足していない点は？



その他：

- ・ 個人事業主なので事業収益
- ・ 転職活動中のため満足していない
- ・ まだ働いてないのでわからない
- ・ 就職活動に時間がかかってしまっている点
- ・ 自分を活かせる仕事、報酬がどうなのかがわからない
- ・ まだまだやりたいこと、自分が目指す姿へ到達していないため

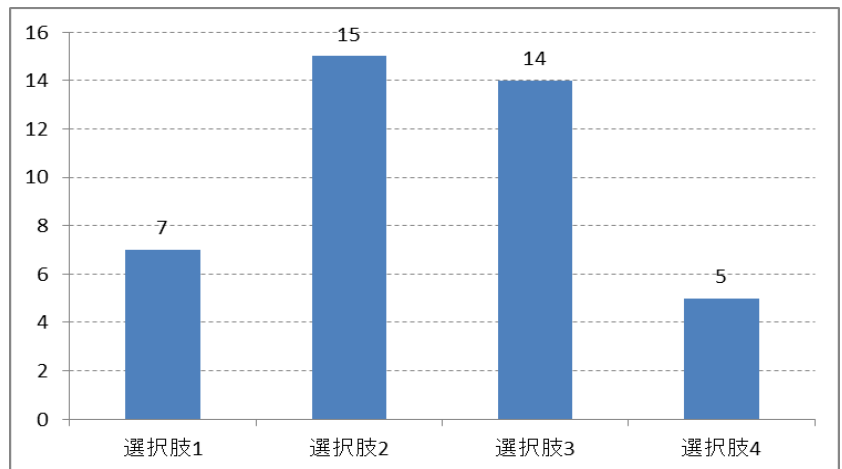
①9 今後、キャリア形成／キャリアアップに向けた支援を民間企業より受けたいと思うか

選択肢1：
とても受けたいと思う

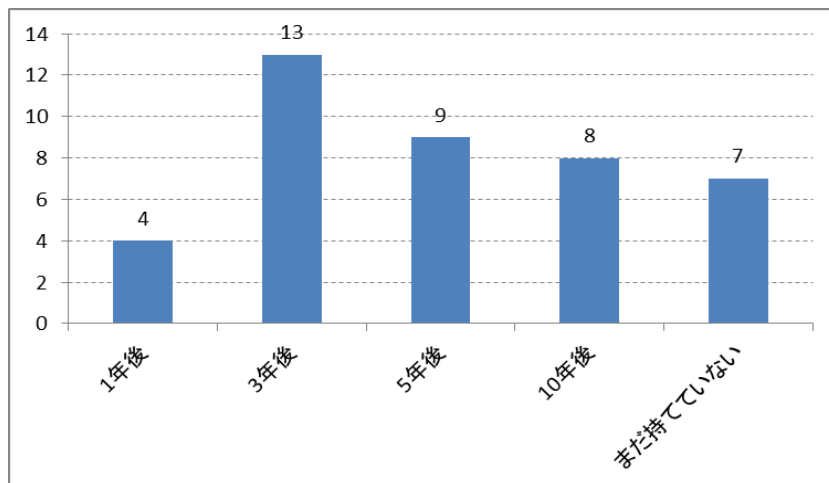
選択肢2：
わりと受けたいと思う

選択肢3：
あまり受けたいと思わない

選択肢4：
ぜんぜん受けたいと思わない



⑳これから何年先までのキャリアイメージを明確に持っているか



未だ明確に持てていない主な理由（任意回答）：

- ・ 家庭とのバランス
- ・ 迷走している状態のため
- ・ まだ働いていないのでわからない
- ・ 企業に勤めるイメージがわからないため
- ・ 現在の職に就いて1年未満であり、多岐に渡る仕事内容の把握・管理などに精一杯な為、ここから何が出来るかというところがまだぼんやりとしている

6. 調査結果のまとめ：引退後のアスリート

1) 引退後のキャリアの様相

引退後に就いた職域としてはスポーツ関連が最も多かった（**p20**）。当職域は引退移行期のアスリートの多くが就職先として希望するものでもあり（**p10**）、自らの希望を実現しているアスリートが多いことが示された。

現在のキャリアステータスとしては「正社員」との回答が最も多く（**p17**）、引退後のキャリアの推移としては、「アルバイト、契約社員、正社員のいずれかを維持」との回答が最も多かった（**p19**）。

現在の生活への満足度では、「とても満足している」または「わりと満足している」との肯定的回答が半数以上を占め（27名／約66%）、満足している点として最も多く挙げられたのは「業務内容」であった（**p25**）。

2) アスリートが求める、引退後のキャリア形成関連情報

前述の引退移行期のアスリートの結果に比べ（**p11**）、「企業側がアスリートに期待する・求める能力」が比較的突出する形となった（**p23**）。実際に企業等に勤務した経験から、日々の業務へ早期に適応しようとする心境が反映されていると考えられる。

3) アスリートが求める、引退後のキャリア形成支援

現役中にあればよかったと感じる支援として最も多く選択されたのは「合同説明会」であり（**p24**）、この傾向は前述の引退移行期のアスリートにおいても同様であった（**p11**）。

4) 民間企業によるキャリア形成に向けた支援への意識

「とても受けたいと思う」または「わりと受けたいと思う」という肯定的な回答が全体の約半数を占める結果となった（**p26**）。現役中に引退後の準備をしていなかったグループ（21名）においてもこのような肯定的回答は約半数（10名）を占め、前述の引退移行期のアスリートの結果に比べ肯定的回答の割合は増加していた（**p15**）。実際に企業等に勤めることによる意識の変化が表れていると考えられる。

7. アンケート調査全体としてのまとめ

1) キャリア形成支援のあり方

引退移行期にあるアスリートにおいて、引退後のキャリアに向けて実際に準備を行うアスリートは約半数程度と推察され（**p12、21**）、キャリア形成支援に対するニーズは一定数存在するといえる。一方で、多数のアスリートを対象に講習会または研修会形式にて支援を行う場合、そこに向けられるモチベーションには明確な個人差が見られることが予測される。

効果的な支援のあり方としては、多くのアスリートが準備として行っている「情報収集」に応える形での「情報提供」が想定される。例えば、本事業で創出を目指すロールモデルをはじめとした（引退から就職に至るまでの）モデルケースや、企業側がアスリートに期待する・求める能力といった情報が挙げられる。引退後の準備を行わない主な理由として「何をすべきかわからない」というのがあるため（**p12、22**）、有益な情報提供はアスリートの行動変容を促す可能性があるのではないだろうか。また、引退後のキャリアに対して抱いている主な不安として、「日々の仕事にやりがいを持つことができるのか」というのがあるため（**p9**）、先輩アスリートたちが新たなステージにおいて、どのようにやりがいを見出していくことができたのか、という点での情報提供も有効であると考えられる。

2) 人間としての能力に対する認識を高める

「自らの強みを活かせる」というのを、引退後の職業を決める理由の1つとしているアスリートが多く見られた（**p20**）。アスリートが自らの強みを幅広く認識し、それを自信として新たなキャリアの形成に果敢に挑んでいくためにも、「目標を設定し努力を継続できる」、「苦しい場面でもポジティブ思考で踏ん張れる」、「周囲と協調できる」といったアスリートが長年の競技経験を通じて獲得してきている人間としての能力、すなわち「ライフスキル」への認識を高めておくことは重要であると考えられる（**p8、23**）。そのための支援として、ライフスキルの獲得を支援するライフスキルプログラムの展開が挙げられる。本事業においても3名の元プロアスリートに向けて、ライフスキル研究者が講師を担当し、個別研修を行っている（**p35～37**）。今後は、引退後の準備を行っているアスリートを中心としながら、個別または集団形式によるライフスキルプログラムの展開が想定される。

Ⅱ	研修・マッチング事業
---	------------

1 マッチング（アスリート面談）

プロフィール	内容まとめ
★元アスリートA ■まだやりたいことは見つからず。	・引退後、工場で肉体労働のアルバイトをしている。あくまでバイトとして働いているだけで、自分のやりたいことを見つけて働きたい。 ・現役を離れて感じることは、もっとチーム内で発言するべきだったのではと思っている。団体行動の中で協力的ではない選手、チームで改善できる気づきなど、日々言葉を飲んでいなかったか？レギュラーではなかったが自分の力でもっとチームに貢献できたのではないか。 ・仕事は「自分の市場価値を高める」ために前向きに働くことにしたいと感じている。つまりは自分でやろうと思える仕事を探したいと思っている。
★元アスリートB ■稼げる営業職を希望 将来的には独立したい。	・本人はできればスポーツ関係の仕事がしたいと話しているが、この先に野球以上に情熱を注げるものはないとはっきりコメント。それぐらい野球がすべてだったことが伺える。 ・引退直後に結婚もして、家族の為にもスポーツ関係の仕事ではなくとも、稼げる仕事について稼ぎたいと思っている。また営業系の仕事は自分に適正があると感じており、対人のコミュニケーションには自信があるとのこと。 ・希望としてはスポーツ関係の仕事・仕事で結果が出た場合、給料が増える体系・営業
★元アスリートC ■仕事の内容を決めていないが仙台で働くことだけは決めている。	・本人は満足して野球から離れたわけではないので、言葉の端々から野球への思いが、滲み出ている。 ・働く場所は仙台エリアと決めている、業種は営業系だが家に関わる仕事がしたいと思っている。「不動産・ハウスメーカー・家電」など。理由としては、人間が生活する上で家は必要不可欠のもので、重要なものであるからこそ関わっていきたいと感じている。 ・またじっくりと物事を考えることにも興味があり、商品開発や企画を考えることもやってみたいことの一つと思っている。 ・野球を現役で続けたい気持ちも残っており、就職か現役続行かの判断を自分の中で整理中。

1 マッチング（アタック企業検討）

【ポイント】

- どんな業種・職種があるか自分で検討する。→自分が希望する業種・職種を固める
- 入社後の自分の将来像をイメージする。
- 自分のゆずれないポイントを確認→勤務エリア、休み、給料など。

プロフィール	内容まとめ
★元アスリートA	・以前、本採用ではないものの、教師をしていたので、あらためて、教員を目指すことを一つの道としたが、こちらは不採用となった。 ・その結果を受けて、「自分が何かできるようになるか」を軸に検討。検討した結果。選手の経験を活かして、外から野球をささえる仕事、選手をサポートする仕事、をしてみたいと強く感じた。 ★本人の気持ちや情報を共有した結果、現在募集はしていないが、リーグ事務局のスタッフを希望就職先とした。
★元アスリートB	・将来的に独立したい。社長になりたい。そこに近づけるような働き方がしたい。エリアとしては自宅から通える範囲で探したい。できれば土日休みで、給料も年間360万は希望。 ・業種・職種は絞り切れていないが営業職を希望。人と接することが好きなので自分に営業は合っていると思うし自信もある。イメージとしては、不動産やベンチャー企業も興味あり。 ★弊社から4社提案。 (大手家電メーカー・スポーツメーカー・不動産・建築) 本人と検討した結果、大手家電メーカーと不動産へ応募とした。また知人から紹介されている保険会社と人材紹介会社も平行して進めることも共有。
★元アスリートC	・時間をおいて検討したがアタック企業条件は、1回目の面談からの内容どおりで変化はない。※勤務地は仙台エリアが絶対条件。 ・業種としては「家」をキーワードにした「不動産・ハウスメーカー・家電」他にスポーツショップも希望。職種としては営業系、企画。 ・現役の思いは一度封印して就職へ向けてチャレンジすることにした。 ★弊社から3社提案 (大手家電・スポーツメーカー・大手レンタル会社) 本人と検討した結果、大手家電メーカーへ応募とした。また自分で探したスポーツジムも応募することを共有。

1 マッチング（面談トライアル）

【ポイント】

■自己紹介（自分のPR）

■志望動機

※元気よくはっきり答えよう。小さな声にならないように。語尾が下がらないように。
相手の目を見てゆっくり話しをしよう。分かりやすく相手に伝える工夫をしよう。

プロフィール	内容まとめ
★元アスリートA	・基本的に話すことが好きなタイプ。とても明るく話す一方で、話が長くなるタイプなので、自己紹介は簡潔に話すことをアドバイス。話し方や、表情などはとても豊かで、自然に笑顔を交えて話すことができるタイプ。面接には大きく加点になると感じた。 ・志望動機は選手の経験をしたからこそできる、選手目線でのリーグ運営のサポート。この強みを軸に組み立てが必要。また話がダラダラと長くならないように、自分が選手時代に感じたことをポイントに絞ることを指示。また自分なら、このようにしたいといった、具体的な案も盛り込むことにした。
★元アスリートB	・話をしていると自分に自信を持っていることが感じられる。年配者から気に入られる要素も感じ取れ、本人が営業に適正があると判断していることも理解できる。ただ話し方が、体育会系独特の表現になる場合があるので注意が必要。 ※略言葉、端折り表現など。 ・また頭の回転が速く、相手の質問途中でも、かぶせてしまうことがあるので、まずはしっかり聞くこと。少し早口なので、ゆっくり話すことをアドバイス。 ・自分の意見をはっきりと伝えることができるので、面接においては先方が良い感触を得るのではないかと感じた。これは非常に良いことなので、本人は無意識だが、そこは大きな魅力と共有。
★元アスリートC	・話し方で、少し聞き取りにくいと感じる時があるので、ゆっくりと普段より やや大きな声で話すことを共有。自己紹介においてはポイントを絞ること、簡潔に話すこと、話す順番も整理。 ・志望動機においてもアレもコレもとにならないように、具体的になぜ、自分がこの会社で働きたいか？を再度考えて、面接官が「なるほど、だからウチなのか」と思ってもらえれば良いと共有。先方は仙台にも強い企業の為、仙台の思い、なぜ仙台で働きたいかなども、本人ならではの回答になるので、そこも盛り込んでみてはとアドバイス。

1 マッチング（マッチングと振り返り）

プロフィール	内容まとめ
★元アスリートA	【リーグの面接】 - 候補者の情熱と熱意から、理事長との面接が実現。 - 選手だったからこそ、その経験を活かしてリーグ運営に貢献したい。リーグ発展のために尽力したいと伝えて見事採用となる。 【振り返り】 ■自分のやりたいことが見つかったからには、まずは行動してみることの重要性をあらためて感じた。良い人材であれば、どの企業においても自分の会社に欲しいと思うはず。情熱と熱意を持って、チャレンジすることは、今後、就職を目指すアスリートへ成功事例となった。何事も諦めずに行動する大切さを伝えていきたい。
★元アスリートB	【人材紹介会社】 - 自分で受けていた企業で内定を獲得。先方から独立までサポートすることを提案され入社を決意。 【大手家電メーカーの面接】 1次面接では本人の意欲、前向きな姿勢などポテンシャルを面接官に伝えて通過も、上記の紹介会社へ入社決定より2次面接辞退。 【不動産の面接】 - 最終面接で是非、入社してほしいと言わしめて内定を獲得も辞退。 【振り返り】 ■企業から1回もNGが出ずに面接を進めていけた最大のポイントは、常に自信を持って、自分の意見を話していたことだと感じている。自分の意見を堂々と話す必要性は、今後のアスリートへ共有箇所。
★元アスリートC	【スポーツジム】 - 現役復帰を目指すことにしたため、時間の融通が利きやすく、かつトレーニングできる環境のメリットから入社を決意。 【大手家電メーカーの面接】 1次面接で不採用。本人としては、自分の思いは伝えられたと報告あり。人事部からは当社で働こうする意思が伝わってこなかったと連絡をいただく。 【振り返り】 ■本人のコメントと面接官とのズレが気になる。原因として考えられることは、自分の思いを相手に伝える言葉で説明ができなかった可能性が高い。候補者によっては課題を明確にして面接などの準備をする必要性をあらためて感じた。

2 研修①

研修1

セミナー名：元プロアスリートに向けたキャリア形成支援

■ 詳細

開催日：3月4日（月）、16～18時

参加者：元アスリートA

講師：島本好平 氏（明星大学教育学部 准教授）

■ 目的と内容

【第1部：自己理解について】

これまでの経歴を順に振り返ってもらいながら、個人の心理的、社会的成長の基盤となる自己理解を促すことを狙いとした。その際、心理検査・性格検査（タイプA行動パターン、ストレス反応パターン）も併せて実施し、客観的指標を交えながら、より正確な自己理解の促進を目指して話を進めた。

【第2部：目標設定について】

勉強やスポーツ、仕事等のあらゆる場面において、高いパフォーマンスを発揮する上で重要な役割を果たしている「目標設定」をとりあげ、効果的な目標設定のあり方を示した「目標設定の原理・原則」等をもとに解説を行った。

講師 島本氏 コメント

対象者はこれまでの経歴を自ら振り返る中で新たな気づきを得ました。さらに自己への理解を深めている様子でした。その際、心理検査・性格検査の結果にもとづく客観的指標は、有効な一資料になったと思われます。対象者は、プロ野球をはじめとして多様な経歴・経験をお持ちで、研修で取り上げた2つの内容については、既に自身で考えを深めている様子でした。そのため、研修の場では新たな知識の提供を全面的に受けるというよりは、自らの考えを追認する形となっていたと思われます。

参加者コメント

今回、初めてこのような研修を受けました。

【自己の理解について】は、様々な検査を行うことで、自身のことを再確認できました。そして、【目標設定について】も自身が今後仕事を行う中で、何をしていくのかをきちんと整理できました。

研修2

セミナー名：キャリア形成を促進するセルフマネジメント研修

■ 詳細

開催日：3月11日（月）、18時30分～20時45分

参加者：元アスリートB

講師：山本浩二 氏（神戸医療福祉大学社会福祉学部 講師）

■ 目的と内容

【第1部：自己分析（理解）】

- アセスメント：対象の理解を促進するために、主な質問内容（「これまでの／今後の人生の展望」「競技生活において最高／最悪だった瞬間」）をもとに傾聴的に聞き取りを実施

- エゴグラムによる自己分析：客観的に把握。競技生活で得られたこと、聞き取りを行う。できるだけ多く挙げさせる。（※挙げられた「成果」「能力」が今後の日常生活を効果的に送るために必要なもの（ライフスキル）であることを気づかせる）

- ライフスキル評価尺度の実施

【第2部：目標設定】

- ライフスキル、ライフスキルを構成する各側面の紹介

- 目標設定を中心とした教育プログラム（※効果的な目標設定（SMART理論）、期間ごとの目標設定の理由、実際に目標を期間ごとに設定）

講師 山本氏 コメント

※参加者は、こちらがその気づきを意図していた「ライフスキル」の考え方を感覚的にはあるが、認識しているようであった。それが見られたのは、自己分析における「競技生活で得られたもの」の聞き取りです。その中で、アスリートから「目標設定」の重要性を聞き取ることができました。第2部においては、実際に各期間（短期・中期・長期）の目標設定を実施しましたが、その際にもアスリートから積極的に質問や意見を受けました。それらを踏まえ、参加者は競技引退に伴うキャリア移行を比較的スムーズに行うことができている印象を受けました。

参加者コメント

とても有意義な時間となりました。特に自己分析は、数値やグラフで自分の強いところや、弱いところがはっきりと分かりました。現役時も目標を立てて行動してきましたが、社会人においても、目標設定が重要であることが理解できました。最終的なゴールを目指すために、今日何をするか、がとても重要と感じました。

研修3

セミナー名：元プロアスリートに向けたキャリア形成支援

■ 詳細

開催日：3月13日（水）、11時～13時

参加者：元アスリートC

講師：島本好平 氏（明星大学教育学部准教授）

■ 目的と内容

【第1部：自己理解について】

これまでの経歴を順に振り返ってもらいながら、個人の心理的、社会的成長の基盤となる自己理解を促すことを狙いとした。その際、心理検査・性格検査（タイプA行動パターン、ストレス反応パターン、エコグラム）も併せて実施し、客観的指標を交えながら、より正確な自己理解の促進を目指して話を進めた。

【第2部：目標設定について】

勉強やスポーツ、仕事等のあらゆる場面において、高いパフォーマンスを発揮する上で重要な役割を果たしている「目標設定」をとりあげ、効果的な目標設定のあり方を示した「目標設定の原理・原則」等をもとに解説を行った。

講師 島本氏 コメント

参加者Aの研修をもとに、今回の研修ではより研修内容を精選させ、性格検査の結果（特にエコグラムの検査結果）にもとづく自己理解の促進に重点をおいた。対象者はプロのスポーツ選手として現役復帰を目指している様子だったので、研修では自己理解を深めるだけでなく性格検査の結果をもとに、日々の生活への適応をさらに高めながら、パフォーマンスの発揮に向けたアドバイスを慎重に実施しました。結果として参加者は質問を投げかけると多くを語ってくれるとともに、それらの語りは対象者自身の自己理解の深化につながっている印象を受けました。また、今回のような個人研修の場では、講師は知識の提供ばかりに意識を向けるのではなく、研修の効果を高めるために必要な対象者からのアウトプット（語り）を、可能な限り多く引き出していく必要があると感じました。

参加者コメント

とても興味深い時間となりました。
マンツーマンの研修でしたので、
ちょっとしたことでも質問がしやすく、
理解を深めながら、進められたことが
とても良かったです。現役復帰を目指
す為には目標設定が重要になりますの
で、今後、今日学んだこと生かして、
現役復帰を目指します。

GATHER(<https://sjgather.com/>)にて ヒアリング内容を記事として公開中

報告①「元バスケットボール選手 伊藤俊亮」

掲載日：2019年2月4日（前編）<https://sjgather.com/magazine/201902041900/>
2019年2月8日（後編）<https://sjgather.com/magazine/201902071900/>

報告②「元プロ野球選手 江草仁貴」

掲載日：2019年2月15日（前編）<https://sjgather.com/magazine/201902151700/>
2019年2月18日（後編）<https://sjgather.com/magazine/201902221700/>

報告③「元プロ野球選手 生山裕人」

掲載日：2019年2月22日（前編）<https://sjgather.com/magazine/201902221800/>
2019年2月25日（後編）<https://sjgather.com/magazine/201902261700/>

報告④「元女子ラグビー選手 大島千佳」

掲載日：2019年2月28日（前編）<https://sjgather.com/magazine/201902281700/>
2019年3月5日（後編）<https://sjgather.com/magazine/201903051700/>

報告⑤「元サッカー選手 添田隆司」

掲載日：2019年3月8日（前編）<https://sjgather.com/magazine/201903081700/>
2019年3月12日（後編）<https://sjgather.com/magazine/201903121700/>

報告⑥「企業 ヤンマー」

掲載日：2019年3月15日（前編）<https://sjgather.com/magazine/201903151700/>
2019年3月18日（後編）<https://sjgather.com/magazine/201903181700/>

報告⑦「元レスリング選手 半田守」

掲載日：2019年3月20日（前編）<https://sjgather.com/magazine/201903201700/>
2019年3月22日（後編）<https://sjgather.com/magazine/201903221900/>

報告⑧「企業 アイリスオーヤマ」

掲載日：2019年3月26日 <https://sjgather.com/magazine/201903261700/>

Ⅲ	事業実施に向けた仮説
---	------------

1 今後の事業展開について

①アンケート調査を通じて導き出された事業構想

1 キャリアに関する各種有益な情報提供

様々なロールモデルの開示、企業がアスリートに期待する・求める能力等

2 企業との合同説明会の実施

限られた時間の中で、より多くの企業に接する機会の提供

3 自らの強みを認識するライフスキルプログラムの実施

競技を通じて獲得してきている人間的な能力への認識を高める

4 将来のキャリア意識や引退後の準備を促す研修の実施

引退後のキャリア形成に向けた準備を促す

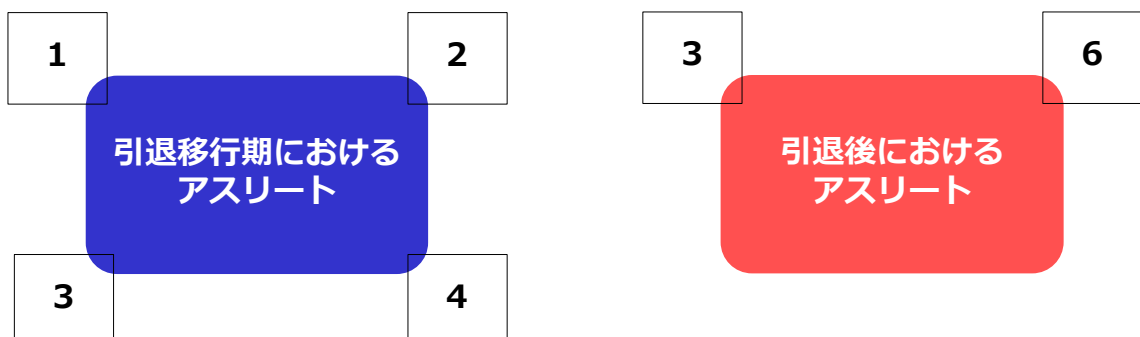
5 ライフスキルプログラム実践者の人材プールの構築

ライフスキルプログラムを担当可能な講師の育成

6 引退後のアスリートに対する動向調査、ライフスキルプログラムの長期展開

継続的にライフスキルプログラムを提供し、さらなるキャリアの発達を促す

②上記における各事業を、下記のようにそれぞれの対象へ展開していく



資料	Webアンケート調査画面
----	--------------

アスリートのキャリア形成に関するアンケートへのご協力のお願い

2018年12月
株式会社スポーツビジネス GATHER事業部

【はじめにご確認願います】
アスリートにとって、現役時代よりはるかに長い引退後のキャリアをどのように充実させるかは、誰もが考える大きな課題の1つとなります。このアンケートは、アスリートの方々が抱く引退後のキャリア形成への意識と、それに向けた現状について調査を実施することを目的としています。
「アスリートが考えるキャリア形成への意識」と「企業が捉えているアスリートが持つ価値の意識」を明らかにし、それをうまくマッチングさせることで、アスリートが社会で活躍しつづけられる土壌づくりを目指す、という本事業（※）の趣旨をご理解いただき、是非、貴重な回答を寄せていただければと思っております。

※事業名／平成30年度スポーツ庁委託事業
スポーツキャリアサポート戦略：アスリートと企業等とのマッチング支援

アンケートを通じて収集されたデータは、その後、全体的な傾向等を分析し、報告書としてまとめ、本年度末にスポーツ庁へ事業報告書として提出させていただきます。質問項目の大半は選択式となっております。お手数ですが事前に質問項目全体をご確認いただき、協力の可否をご検討願います。また、アンケートへの回答をもちまして、「回答に対する同意の意思表示」として受け取らせていただきます。それではお手数をおかけしますが、何卒よろしくお願いいたします。

【実施概要】
調査対象：アスリート／五輪種目選手・プロ種目選手・パラリンピアン
：★現役アスリート／★すでに引退し就職している元アスリート
調査内容：アンケートシートに基づく（選択式・記述式を含め15問程度）
実施期間：2018年12月～2019年2月
担 当：株式会社スポーツビジネス GATHER事業部プロジェクトメンバー
謝 礼：2,000円

東京都中央区銀座7-10-6アスク銀座ビル5F
電話03-5537-8460 FAX 03-5537-8461

■ご不明な点・ご質問などございましたらお気軽にご連絡ください。
【担当】 田中／kazu@sports-biz.co.jp 坂本／sakamoto@sports-biz.co.jp 太田／ota@sports-biz.co.jp

*必須



氏名・連絡先(主要メールアドレス) *

※謝礼金を支払うときにご連絡させていただきます。

回答を入力

【1：年齢】

回答を入力

【2：性別】 *

- ☐ 男性
- ☐ 女性

【3：現在の専門競技】 *

回答を入力

【4：その競技での最高の競技成績】 *

回答を入力

【5：現在の活動形態】 *

- ☐ プロ
- ☐ 実業団(正社員：引退後も現在の社会にて勤務できる)
- ☐ 実業団(アスリート契約社員：引退後は現在の会社にて勤務することはできない)
- ☐ 競技とは別に収入を確保して活動
- ☐ フリー
- ☐ その他:

【6：アスリートとしての現在の目標】 *

例) 2020東京オリンピックでのメダル獲得／今年度のリーグ戦でチームの優勝に貢献

回答を入力

【7：競技を通じて獲得してきた、競技能力以外でのあなたの強み】 *

- ☐ 目標を設定し努力を継続できる
- ☐ 苦しい場面でもポジティブ思考で踏ん張れる
- ☐ PDCAサイクルの実践
- ☐ 周囲と協調できる
- ☐ その他:

【8：ケガや成績不振、スランプ等の競技上の困難をこれまでどのように乗り越えてきたか】 *

- ☐ いまできることを考え、それに専念する
- ☐ 周囲（指導者や同僚、家族）に助言やアドバイスを積極的に求める
- ☐ インターネットや読書等から情報を収集し、自ら状況の打開策を見出していく
- ☐ ネガティブな状況をポジティブにとらえる
- ☐ その他:

【9：引退後のキャリアに対して抱いている不安】 *

- ☐ 日々の仕事にやりがいを持つことができるか
- ☐ 日々の業務をこなしていくことができるか
- ☐ 職場の人間関係に対応していけるか
- ☐ アスリートとしての経験や実績は評価されるのか
- ☐ 仕事が見つかるのか
- ☐ その他:

【10：現在の職業観】＊

- ☐ 生活の維持
- ☐ 自己研鑽・チャレンジ
- ☐ 社会貢献
- ☐ 資産形成
- ☐ その他: _____

【11：どのような職業に就きたいか】＊

※企業等に勤めている方は現在の職業を回答

- ☐ 公務員
- ☐ サービス業
- ☐ 製造業
- ☐ スポーツ関連（コーチ業を含む）
- ☐ タレント
- ☐ その他: _____

【12：競技現役中に欲しいと感じる引退後のキャリア形成（就職）関連情報（国や民間から）】＊

- ☐ 競技引退から就職獲得までのモデルケース
- ☐ 就職先の傾向
- ☐ 早期離職の割合とその考えられる原因
- ☐ 企業側がアスリートに期待する・求める能力
- ☐ 就職支援サイト・団体の一覧
- ☐ その他: _____

【13：競技現役中に欲しいと感じる引退後のキャリア形成に向けた支援（国や民間から）】＊

※企業等に勤めている方は、さらなるキャリアアップのためとして回答

- ☐ 職業体験
- ☐ 就業体験
- ☐ 合同説明会
- ☐ ビジネスマナー・一般常識の講習会
- ☐ その他: _____

【14：引退後の準備をしているか（A）orしていないか（B）】

＊

- ☐ 引退後の準備をしている（A）
- ☐ 引退後の準備をしていない（B）

（A回答者）最も力を入れて準備をしていることは？

- ☐ 情報収集
- ☐ 人脈構築
- ☐ 資格取得のための学習
- ☐ ビジネスマナーや一般常識習得のための学習
- ☐ 自己分析
- ☐ その他: _____

（B選択者）準備をしていない一番の理由は？

- ☐ 競技に集中
- ☐ 時間的制約
- ☐ やる気が起きない
- ☐ 何をすべきかわからない
- ☐ その他: _____

【15：引退後にキャリア形成／キャリアアップに向けた支援を民間企業より受けたいと思う】＊

- ☐ とても受けたいと思う
- ☐ わりと受けたいと思う
- ☐ あまり受けたいと思わない
- ☐ ぜんぜん受けたいと思わない

【16：引退後の理想の年収】＊

- ☐ 401～500万
- ☐ 501～600万
- ☐ 601～800万
- ☐ 801～1000万
- ☐ 1001～1500万
- ☐ 1500万以上

【17：引退後何年先までのキャリアイメージを明確に持てているか】*

- ☐ 1年後
- ☐ 3年後
- ☐ 5年後
- ☐ 10年後
- ☐ まだ持てていない

まだ持てていないの回答者（その理由は？回答は任意）

回答を入力

送信

アスリートのキャリア形成に関するアンケートへのご協力をお願い

2018年12月
株式会社スポーツビジネス GATHER事業部

【はじめにご確認願います】
アスリートにとって、現役時代より長きに亘る引退後のキャリアをどのように充実させるかは、誰もが考える大きな課題の1つとなります。このアンケートは、元アスリートの方々が抱く引退後のキャリア形成への意識と、それに向けた現状について調査を実施することを目的としています。「元アスリートが考えるキャリア形成への意識」と「企業が捉えているアスリートが持つ価値の意識」を明らかにし、それをうまくマッチングさせることで、アスリートが社会で活躍しつづけられる土壌づくりを目指す、という本事業（※）の趣旨をご理解いただき、是非、貴重な回答を寄せていただければと思っております。

※事業名／平成30年度スポーツ庁委託事業
スポーツキャリアサポート戦略：アスリートと企業等とのマッチング支援

アンケートを通じて収集されたデータは、その後、全体的な傾向等を分析し、報告書としてまとめ、本年度末にスポーツ庁へ事業報告書として提出させていただきます。質問項目の大半は選択式となっております。お手数ですが事前に質問項目全体をご確認いただき、協力の可否をご検討願います。また、アンケートへの回答をもちまして、「回答に対する同意の意思表示」として受け取らせていただきます。それではお手数をおかけしますが、何卒よろしくお願いいたします。

【実施概要】
調査対象：アスリート／五輪種目選手・プロ種目選手・パラリンピアン
：★現役アスリート／★すでに引退し就職している元アスリート
調査内容：アンケートシートに基づく（選択式・記述式を含め15問程度）
実施期間：2018年12月～2019年2月
担 当：株式会社スポーツビジネス GATHER事業部プロジェクトメンバー
謝 礼：2,000円

東京都中央区銀座7-10-6アスク銀座ビル5F
電話03-5537-8460 FAX 03-5537-8461

■ご不明な点・ご質問などございましたらお気軽にご連絡ください。
【担当】 田中 / kazu@sports-biz.co.jp 坂本 / sakamoto@sports-biz.co.jp 太田 / ota@sports-biz.co.jp

*必須



氏名・連絡先(主要メールアドレス) *

※謝礼金を支払うときにご連絡させていただきます。

回答を入力

【1：年齢】

回答を入力

【2：性別】 *

☐ 男性

☐ 女性

【3：現役時の専門競技】 *

回答を入力

【4：その競技での最高の競技成績】 *

回答を入力

【5：現在のキャリアステータス】 *

☐ 正社員

☐ 契約社員

☐ アルバイト

☐ その他: _____

【6：引退して現在何年が経過したか】 *

☐ 1年未満

☐ 1年以上3年未満

☐ 3年以上5年未満

☐ 5年以上

【7：ケガや成績不振、スランプ等の競技上の困難を、現役時どのように乗り越えてきたか】 *

☐ いまできることを考え、それに専念する

☐ 周囲（指導者や同僚、家族）に助言やアドバイスを積極的に求める

☐ インターネットや読書等から情報を収集し、自ら状況の打開策を見出していく

☐ ネガティブな状況をポジティブにとらえる

☐ その他: _____

【8：現在の職業観】 *

☐ 生活の維持

☐ 自己研鑽・チャレンジ

☐ 社会貢献

☐ 資産形成

☐ その他: _____

【9：引退後のキャリアの推移】 *

☐ アルバイト、契約社員、正社員のいずれかを維持

☐ アルバイトから契約社員または正社員へ

☐ 契約社員から正社員へ

☐ 転職を経験

☐ 起業を経験

☐ その他: _____

【10：引退後どのような職についたのか】*

- ☐ 公務員
- ☐ サービス業
- ☐ 製造業
- ☐ スポーツ関連（コーチ業含む）
- ☐ タレント
- ☐ 自営業
- ☐ まだ職に就けていない
- ☐ その他: _____

【11：なぜその職を選択したのか】

※企業等に勤めている方のみ回答

- ☐ コーチや知人からの紹介
- ☐ アスリートとしての経験や実績を評価してくれる
- ☐ 自らの強みを活かせる
- ☐ とにかく職を得るため
- ☐ その他: _____

【12：競技現役中に引退後の準備をしていたか（A）orしていなかったか（B）】*

- ☐ 引退後の準備をしていた（A）
- ☐ 引退後の準備をしていなかった（B）

（A選択者）最も力を入れて準備していたことは？

- ☐ 情報収集
- ☐ 人脈構築
- ☐ 資格取得のための学習
- ☐ ビジネスマナーや一般常識習得のための学習
- ☐ 自己分析
- ☐ その他: _____

（B選択者）準備をしていなかった一番の理由は？

- ☐ 競技に集中
- ☐ 時間的制約
- ☐ やる気が起きない
- ☐ 何をすべきかわからない
- ☐ その他: _____

【13：競技現役中に最も準備しておくべきだったこと】*

- ☐ 情報収集
- ☐ 人脈構築
- ☐ 資格のための学習
- ☐ ビジネスマナーや一般常識習得のための学習
- ☐ 自己分析
- ☐ その他: _____

【14：職場に適応する際に役に立ったと感じる、競技能力以外でのあなたの強み】*

※まだ企業等に勤めていない方は、「役に立ちそうだと感じる強み」で回答

- ☐ 目標を設定し努力を継続できる
- ☐ 苦しい場面でもポジティブ思考で踏ん張れる
- ☐ PDCAサイクルの実践
- ☐ 周囲と協調できる
- ☐ その他: _____

【15：競技現役中にあればよかったと感じる引退後のキャリア形成（就職）関連情報（国や民間から）】*

- ☐ 競技引退から就職獲得までのモデルケース
- ☐ 就職先の傾向
- ☐ 早期離職の割合とその考えられる原因
- ☐ 企業側がアスリートに期待する・求める能力
- ☐ 就職支援サイト・団体の一覧
- ☐ その他: _____

【16：競技現役中にあればよかったと感じる引退後のキャリア形成に向けた支援】*

- ☐ 職場体験
- ☐ 就業体験
- ☐ 合同説明会
- ☐ ビジネスマナー・一般常識の講習会
- ☐ その他: _____

【17：引退後の理想の年収】＊

- ☐ 401～500万
- ☐ 501～600万
- ☐ 601～800万
- ☐ 801～1000万
- ☐ 1001～1500万
- ☐ 1500万以上

【18：今の生活に満足しているか】＊

- ☐ とても満足している
- ☐ わりと満足している
- ☐ あまり満足していない
- ☐ ぜんぜん満足していない

「とても／わりと満足している」の選択肢での回答者－満足している点は？

- ☐ 業務内容
- ☐ 給与
- ☐ 就業時間
- ☐ 職場の人間関係
- ☐ その他: _____

「あまり／ぜんぜん満足していない」の選択肢での回答者－満足していない点は？

- ☐ 業務内容
- ☐ 給与
- ☐ 就業時間
- ☐ 職場の人間関係
- ☐ その他: _____

【19：今後、キャリア形成／キャリアアップに向けた支援を民間企業より受けたいと思うか】＊

- ☐ とても受けたいと思う
- ☐ わりと受けたいと思う
- ☐ あまり受けたいと思わない
- ☐ 全然受けたいと思わない

【20：これから何年先までのキャリアイメージを明確に持っているか】＊

- ☐ 1年後
- ☐ 3年後
- ☐ 5年後
- ☐ 10年後
- ☐ まだ持っていない

まだ持っていないの回答者（その理由は？回答は任意）

回答を入力 _____

送信

株式会社スポーツビズ

- ・山本雅一 （代表取締役）
- ・田中和弘 （取締役）
- ・坂本 章 （GATHER事業部／部長代行）
- ・太田弘樹 （GATHER事業部／編集長）

外部協力者

- ・清水聖志人（一般社団法人Sports Design Lab代表理事）
- ・河野隆志 （一般社団法人Sports Design Lab理事／東都リハビリテーション学院）
- ・島本好平 （一般社団法人Sports Design Lab理事／明星大学）
- ・山本浩二 （神戸医療福祉大学）
- ・岡井理香 （広島大学大学院）